

科目名	HST310: 東洋研究				担当教員	玉置 真紀子		
開講期	春	開講時限	火金2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	アジア基層文化、交易、先住民族、植民地化、開発、児童労働、マイクロファイナンス							
授業の概要	西洋から見た「東洋」の自然環境、歴史、宗教、文化、社会を学び、その文化的重層性と多様性を理解する。国際社会の中で、その人口規模からも経済的にも東南アジアの重要性は増している。開発が進むなかで生きる人々の生活を知り、その知恵を学ぶ。同時に、発展の陰で取り残される女性や子どもたちの生活に目を向け、現代社会における数々の課題の原因をふまえ、解決方法を探る。							
達成目標(授業の目的)	東南アジア世界の成立と現代社会を理解し、そこに生きる人々の視点を獲得することで、遠い他者を身近な隣人として考えることを可能にすることが目標である。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジアの基層文化と多様性を理解する。 ・ 人々の日常生活と経済活動を授業で学んだ用語や概念を用いて分析し、記述できる(評価①)。 ・ 開発・発展に伴う貧困や児童労働などの問題群の原因を説明し、解決のための提案ができるようになる(評価②③)。 							
評価方法	① 授業課題：授業内で提出するリアクションペーパー 2%×24回=48% ② 授業内試験：選択式、論述式 22% ③ 定期試験：選択式、論述式 30%							
評価基準	① 授業課題：授業内容を理解した上で、質問に対して(1)論理的に説明すること、(2)具体的に記述すること、を求める。これができるのであれば2点、感想のみの場合は1点となる。 ②&③ 授業内試験と定期試験：問題に対して(1)テーマを設定し、授業で学んだ用語や理論を援用して論理的に説明すること、(2)課題解決型の問題の場合は具体的な解決策を提案すること、(3)自分の経験に引き寄せて検討すること、を求める。感想のみの場合は減点対象とする。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	講義の概要説明、東洋と東南アジアについて	講義、質疑応答	東南アジア各国の位置と成り立ちを確認する。
2	東南アジアの自然環境	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキスト pp.16-23を読む
3	東南アジアの基層文化	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキスト pp.24-36を読む
4	東南アジアの歴史と社会(1)インド化	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキスト pp.47-54を読む
5	東南アジアの歴史と社会(2)交易の時代から植民地化へ	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキスト pp.55-72を読む
6	東南アジアの歴史と社会(3)脱植民地化から国民国家形成へ	講義、質疑応答 リアクションペーパー	テキスト pp.73-79を読む
7	人びとは何を食べてきたかーコメの歴史と棚田のテクノロジー	講義、DVD視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.137-150, pp.297-303を読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	東南アジアの宗教(1) 仏教、ヒンズー教	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.152-157, pp.166-172 を読む
9	東南アジアの宗教(2) イスラム教、キリスト教	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.158-165 を読む
10	東南アジアの居住空間—都市と農村	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.130-136 を読む
11	児童労働とは(1) 子どもの権利条約	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
12	児童労働とは(2) 児童労働の実態	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
13	児童労働とは(3) 農園で働く子どもたち	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	参考資料を読む
14	児童労働とは(4) 子ども兵士という衝撃	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
15	東南アジアにおける児童労働のまとめ、授業内試験	講義、質疑応答、授業内試験(50分)	1~14回の講義を復習する
16	現代東南アジア史におけるキーパーソン	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.366-412 を読む
17	試験の返却と解説 先住民民族と呼ばれる人々	試験返却および解説 講義	テキスト pp.252-275 を読む
18	東南アジアの古典文学	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.182-188 を読む
19	東南アジアの家族観—結婚、家族、親族、子どもの成長	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.173-179 を読む
20	大陸東南アジアの現在(1) ラオス	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
21	大陸東南アジアの現在(2) ミャンマー/ビルマ	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
22	マイクロファイナンスを学ぶ(1) マイクロファイナンスの成立と背景	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
23	マイクロファイナンスを学ぶ(2) マイクロファイナンス機関と実践	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
24	マイクロファイナンスを学ぶ(3) 課題と解決に向けて	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
25	東南アジアの移住/移民労働者	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
26	日本で働く東南アジアの人々	講義、DVD 視聴 リアクションペーパー	参考資料を読む
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	東南アジア社会における経済と労働問題のまとめ	講義、質疑応答 リアクションペーパー	16~26回の講義を復習する
28	東洋を再考する 定期試験の返却と解説	講義、試験返却、および解説	講義の振り返り

テキスト	今井昭夫編『東南アジアを知るための50章』(明石書店)
参考書	大野・鈴木・日下編著『フィリピンを知るための64章』(明石書店) 清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』(ミネルヴァ書房)
その他 特記事項	学習者にとって初めて聞く・見ることばかりの内容になると思います。好奇心を持って臨みましょう。質問はリアクションペーパーに記入すれば、次回返答致します。

科目名	HST302: 西洋研究					担当教員	森下 園	
開講期	春	開講時限	火金5限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	教会史、女性史							
授業の概要	キリスト教文化を理解するため、古代ローマ帝国時代から第二バチカン公会議までのヨーロッパの教会史を概観する。ヨーロッパが中心となるがアメリカ、日本についても一部取り上げる。							
達成目標(授業の目的)	ヨーロッパの歴史と不可分であるキリスト教の歴史を学び、その歴史的意義や文化への影響力について理解し、自分の言葉で説明できるようにすることが目標である。							
到達目標(学修成果)	①次回授業プリントを事前に読んで事典類で用語を調べることで予習する習慣をつけ、授業後に授業課題を書くことで授業内容を理解できるようになる。 ②重要な変化・出来事・人物・考え方などについて、自分の言葉で説明できるようになる。							
評価方法	①授業課題：3%×25回=75% (Moodleで提出) ②定期試験：25% (ペン書き、論述式)							
評価基準	①授業課題：授業内容を正しく理解しているか、自分で調べ学習をしているか ②定期試験：授業で扱った事象について、理解していることを自分の言葉でまとめた文章として書けるか							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	はじめに —キリスト教とヨーロッパ史	講義、質疑応答	キリスト教の起源について調べる、Moodle登録
2	ローマ帝国時代(1) 迫害の時代	講義、質疑応答	授業プリントの予習、2回授業課題提出①
3	ローマ帝国時代(2) 教父の時代	講義、質疑応答	授業プリントの予習、3回授業課題提出②
4	イングランドへの布教	講義、質疑応答	授業プリントの予習、4回授業課題提出③
5	シャルルマーニュの戴冠	講義、質疑応答	授業プリントの予習、5回授業課題提出④
6	フランク王国	講義、質疑応答	授業プリントの予習、6回授業課題提出⑤
7	ビザンツ帝国と東方教会	講義、質疑応答	授業プリントの予習、7回授業課題提出⑥
8	西方修道制	講義、質疑応答	授業プリントの予習、8回授業課題提出⑦
9	中世芸術	講義、質疑応答	授業プリントの予習、9回授業課題提出⑧
10	グレゴリウス改革	講義、質疑応答	授業プリントの予習、10回授業課題提出⑨
11	新しい修道制	講義、質疑応答	授業プリントの予習、11回授業課題提出⑩

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	中世の大聖堂建築	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 12回授業課題提出⑪
13	十字軍と巡礼	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 13回授業課題提出⑫
14	12世紀ルネッサンス 神聖ローマ帝国	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 14回授業課題提出⑬
15	修道院学校・教会学校・大学へ	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 15回授業課題提出⑭
16	異端審問と托鉢修道会	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 16回授業課題提出⑮
17	神秘霊性と隠修女ノーリッジのジュリアン 自称聖女マージェリー・ケンプ	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 17回授業課題提出⑯
18	百年戦争とジャンヌ・ダルク	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 18回授業課題提出⑰
19	中世の聖女たちと聖母マリアをめぐる教義	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 19回授業課題提出⑱
20	魔女狩り	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 20回授業課題提出⑲
21	宗教改革とカトリック教会改革	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 21回授業課題提出⑳
22	アメリカのキリスト教(1)ピューリタンと カトリック	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 22回授業課題提出㉑
23	アメリカのキリスト教(2)独立後の諸教会	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 23回授業課題提出㉒
24	トリエント公会議後の教会改革とイエズス 会の世界伝道	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 24回授業課題提出㉓
25	日本の隠れキリシタンについて	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 25回授業課題提出㉔
26	近代の教会と世界大戦	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 定期試験準備
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	第二バチカン公会議とエキュメニズム	講義、質疑応答	授業プリントの予習、 27回授業課題提出㉕
28	終わりに — キリスト教文化について 定期試験返却と講評	講義、質疑応答、講評	振り返り

テキスト	なし。授業内容に関するプリントを Moodle で配布
参考書	アラン・コルバン編、浜名優実監訳『キリスト教の歴史』(藤原書店) 森本あんり『アメリカ・キリスト教史』(新教出版社)

科目名	JPN311: 日本文化					担当教員	森下 園	
開講期	秋	開講時限	火金3限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	日本史、日本文化、自己イメージと他者イメージ							
授業の概要	「日本らしい文化」「日本人らしさ」とはどのような経緯を経て作り出されてきたのか、日本史を踏まえながら見ていく。特に近世以降の理解に重点を置く。主に「日本民族」の自己及び他者イメージ、日本王権論、宗教、芸能、メディア文化、家族、他国との交流、言語、ポップカルチャーについて、英文資料も使いながら取り上げる。							
達成目標(授業の目的)	日本の文化・歴史について問われた時に、専門的なレベルで答え、あるいは議論できるようにすることが目標である。							
到達目標(学修成果)	高校の日本史レベルの内容を頭に入れた上で、講義で扱う概念・用語・事例を理解し、自分の言葉で説明できるようにする。①そのため、講義前にその時代の主な出来事について予習を行い、授業終了時に授業内容について出された課題に自分の言葉で答えられるようにする。②また特に関心のあるトピックについて、参考文献を読み、まとまった文章で論述できるようにする。							
評価方法	①Moodle提出の課題(約400字)が3%×20回=60% ②2000~3000字の期末レポートが40%の計100%となる。							
評価基準	①授業課題: 要点を整理して自分の言葉でまとめているか、提出期限を守っているか。なお欠席した回の課題は採点対象にならない。研究倫理違反は0点となる。 ②レポート: 適切なテーマで適切な参考文献を使用・引用し、定められた書式・字数で期日までに提出しているか。研究倫理違反は0点となる。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	はじめにー「日本文化」とは何か Moodleの使い方について	講義、質疑応答、意見交換	自分が思う「日本文化」について、箇条書きにする
2	「日本人」の定義(1) 旧石器遺跡捏造事件	講義、質疑応答、意見交換	Moodleに書き込み 第3回授業プリントの予習
3	「日本人」の定義(2) 人類学者の学説変遷	講義、質疑応答、意見交換	第3回授業課題① 第4回授業プリントの予習
4	「日本人」の定義(3) 植民地政策にあらわれるゆらぎ	講義、質疑応答、意見交換	第4回授業課題② 第5回授業プリントの予習
5	日本の王権論(1) 古代の神話と天皇	講義、質疑応答、意見交換	第5回授業課題③ 第6回授業プリントの予習
6	日本の王権論(2) 中世の天皇と将軍	講義、質疑応答、意見交換	第6回授業課題④ 第7回授業プリントの予習
7	日本の王権論(3) 明治以降の天皇制	講義、質疑応答、意見交換	第7回授業課題⑤ 第8回授業プリントの予習
8	日本の宗教(1) 仏教	講義、質疑応答、意見交換	第8回授業課題⑥ 第9回授業プリントの予習
9	日本の宗教(2) 神仏習合	講義、質疑応答、意見交換	第9回授業課題⑦ 第10回授業プリントの予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	日本の宗教(3) キリシタンとキリスト教	講義、質疑応答、意見交換	第10回授業課題⑧ 第11回授業プリントの予習
11	日本の宗教(4) 江戸時代の宗教・明治の宗教	講義、質疑応答、意見交換	第11回授業課題⑨ 第12回授業プリントの予習
12	日本の芸能(1) 源氏物語	講義、質疑応答、意見交換	第12回授業課題⑩ 第13回授業プリントの予習
13	日本の芸能(2) 琵琶法師	講義、質疑応答、意見交換	第13回授業課題⑪ 第14回授業プリントの予習
14	日本の芸能(3) 能と歌舞伎 レポートの説明	講義、質疑応答、意見交換	第14回授業課題⑫ 第15回授業プリントの予習
15	日本の芸能(4) 書物・浮世絵・料理 レポートの説明	講義、質疑応答、意見交換	第15回授業課題⑬ 第16回授業プリントの予習
16	日本の家族観(1) 江戸時代の婚姻・離婚	講義、質疑応答、意見交換	第16回授業課題⑭ 第17回授業プリントの予習
17	日本の家族観(2) 明治の教育と家族観の変化	講義、質疑応答、意見交換	第17回授業課題⑮ 第18回授業プリントの予習
18	他国との交流(1) 朝鮮半島との交流史	講義、質疑応答、意見交換	第18回授業課題⑯ 第19回授業プリントの予習
19	他国との交流(2) 日本を訪れた人々・日本から海外を訪ねた人々	講義、質疑応答、意見交換	第19回授業課題⑰ 第20回授業プリントの予習
20	メディア文化(1) 明治・大正時代のメディアと女性イメージ	講義、質疑応答、意見交換	第21回授業プリントの予習 レポート作成準備
21	メディア文化(2) SNSの問題	講義、質疑応答、意見交換	第22回授業プリントの予習 レポート作成準備
22	日本の自己イメージ — 国勢調査、世論調査は何を語るか	講義、質疑応答、意見交換	第23回授業プリントの予習 レポート作成準備
23	言語 — 「標準語」と「方言」、「日本語」と「英語」	講義、質疑応答、意見交換	第24回授業プリントの予習 レポート作成準備
24	国文学とは何か レポート提出	講義、質疑応答、意見交換、レポート提出	レポート作成準備 第25回授業プリントの予習
25	ポップカルチャー(1) アニメとマンガ	講義、質疑応答、意見交換	第25回授業課題⑱ 第26回授業プリントの予習
26	ポップカルチャー(2) 少女文化	講義、質疑応答、意見交換	第26回授業課題⑲ 第27回授業プリントの予習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	太平洋戦争をめぐるさまざまな議論	講義、質疑応答、意見交換	第27回授業課題⑳
28	再び、「日本文化」とは何か レポートの講評	講義、質疑応答、意見交換、講評	授業の振り返り

テキスト	なし。授業内容に関するプリントを Moodle にアップロードするので、各自で印刷すること。
参考書	網野善彦『日本とは何か 日本史 00 巻』(講談社) NHK 高校講座、日本史 (インターネットで視聴可)

科目名	INT301: 国際関係論				担当教員	辛 女林		
開講期	春	開講時限	月木2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	国際情勢、グローバル社会、政治・経済、日本の国際関係							
授業の概要	今日の世界では何が起きているのか、何が問題なのかについて考える。そのため、歴史、理論、及びグローバル社会の様々なイシューをとりあげる。 授業中ディスカッション及びグループ・プレゼンテーションを行う。							
達成目標 (授業の目的)	国際関係論における基本的な理論・概念を理解する。 その理論・概念を社会現象に適用できる。 関心分野をみつけ、学生自身の観点から要因と結果を分析する。							
到達目標 (学修成果)	資料及び講義内容を自らの言葉でまとめことができる。(評価1及び2) 国際関係論の概念を理解する。(評価1及び2) 関心分野をみつけ、それについて資料調査及び問題提起ができる。(評価2及び3)							
評価方法	1. 授業参加 (15%) 2. 授業内試験1回目 (25%)、授業内試験2回目 (30%) 3. グループ・プレゼンテーション (30%)							
評価基準	1. 授業参加：ディスカッションに関する質疑応答、他の発言及び質問 2. 授業内試験：国際関係論の理論・概念を理解しているか。(1回目) 概念理解及びそれを自分の関心分野へ適用できるか。(2回目、論述問題有り) 3. グループ・プレゼンテーション：資料及び文献調査、問題提起、及び授業内容の適用							
準備学修 の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	国際関係論の紹介、授業運用の説明	ガイダンス 講義	レジュメを復習
2	国家はどうできたのか。(国際体制の形成の歴史1)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
3	現在の国際関係はどう作られたのか(国際体制の形成の歴史2)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
4	国家以外のアクターと今の国際社会(グローバル・ガバナンス)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
5	パワーを中心にみた国際関係(理論1リアリズム)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
6	利益と協力を中心にみた国際関係(理論2リベラルリズム)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
7	世界をみる他の観点(理論3規範の他)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
8	安全な国際社会を作る方法(安全保障1)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
9	新しい脅威への対応(安全保障2)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	内戦、民族紛争はなぜ起きるのか?	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
11	紛争への介入と平和構築	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習
12	紛争の実例	講義 視聴覚資料	次回レジュメを予習
13	経済と国際関係(貿易制度を中心に)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 授業内試験準備
14	授業内試験 グループ・プレゼンテーションの説明	授業内試験 講義	次回のレジュメを予習
15	環境問題をめぐる対立と協力	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
16	技術と国際関係 試験の返却及び解説	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
17	新しい領域をめぐる国際制度(北極、宇宙、海洋)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
18	人の移動(難民、移民、頭脳流出)と日本の制度	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
19	ヨーロッパの統一—EUの成り立ち	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
20	日本とアメリカの関係(同盟を中心に)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
21	朝鮮半島について(北朝鮮と韓国の関係)	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
22	日本と朝鮮半島	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 次回レジュメを予習
23	日本の海外開発協力	講義 ディスカッション	ディスカッション資料を復習 プレゼンテーションの準備
24	グループ・プレゼンテーション(1)	プレゼンテーション 質疑応答	プレゼンテーションの準備
25	グループ・プレゼンテーション(2)	プレゼンテーション 質疑応答	プレゼンテーションの準備 授業内試験の準備
26	授業内試験、授業のまとめ	授業内試験 講義	授業内容について質問を準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	グループ・プレゼンテーションへの評価・フィードバック、試験の返却及び解説	講義 質疑応答	次回のレジュメを予習
28	グローバル化は私たちの生活にどのような影響を与えているのか?	講義 ディスカッション	今までの内容を復習

テキスト	特になし。授業内容をまとめたレジュメを Moodle にアップロードする。 ディスカッション資料(新聞記事や関連文献の一部)は授業の際、配布する。		
参考書	中西 寛、石田 淳、田所 昌幸『国際政治学』(有斐閣、2013) 滝田賢治、大芝 亮、都留康子編『国際関係学—地球社会を理解するために(第2版)』(有信堂、2013)		

科目名	ART300: 現代美術				担当教員	G. Freddes		
開講期	春	開講時限	火金2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-⑤	
キーワード	Romanticism, Japonisme, Modernism, Modern Art, Contemporary Art, Post-Modernism							
授業の概要	This course will explore developments in art from the 19 th to the 21 st Century. Each class will begin with a lecture and / or video on an artist, period, or style. This will be followed by readings pertaining to the lecture and discussion in small groups. Every class will conclude with students writing comments on class content and their online research. Students will be required to conduct research in areas of personal interest, visit two museums and submit two written reports in English.							
達成目標 (授業の目的)	Students will acquire a fundamental knowledge of major artists and art movements of the past 200 years. They will learn the vocabulary of art and various ways of looking at art by considering its formal characteristics, materials, and cultural / historical contexts. The course aims to support students in developing insights into how the rapidly changing modern world has affected individual artists and how they, in turn, have influenced and shaped the world in which we live.							
到達目標 (学修成果)	By the end of this course students will be able to recognize many of the most important modern artists. They will be able to describe the works formal characteristics, materials, and possess some understanding of its cultural / historical significance. Ultimately, students will be able to enjoy visiting museums, viewing new works, and more confidently express personal opinions.							
評価方法	Participation and Written Reactions (40%) Midterm Report (25%) Final Report (35%)							
評価基準	Participation, Written Reactions (Note-taking during lecture, involvement in discussions and art-making activities, effort in answering all written reactions using vocabulary learned in class and expressing a personal opinion of the artworks seen in class, online research summary) Midterm Report (at least 600 words) Final Report (at least 800 words) Guidelines for both are the same. (1) Choose an artist of interest and research his / her life. Write the artist's biography. (2) Choose at least six works by the artist and, using vocabulary learned in class, describe the works in detail. Write a conclusion including what you learned about the artist. (3) Visit a museum and report on what you saw. Choose at least five works seen and write in detail about each of them, including materials, formal characteristics, the work's cultural / historical context, and a personal opinion.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course Introduction. What is Modern Art? The Louvre, Orsay, and Beaubourg Museums	Lecture, video, reading, writing, online sources	Read textbook pp. 66-71 Visit the 3 museum's websites
2	Introduction to the textbook, online resources, and art vocabulary	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 76-78 Review, View online sources
3	The Nineteenth Century: Birth of the "Isms" Neoclassicism and Romanticism	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 74-75, 79-80 Review, Online research
4	Romanticism: Goya, Turner, Chopin, Verdi	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 81-88 Review, Online research
5	Nineteenth Century Japan: Ukiyo-e, Hokusai	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 89-91 Review, Online research
6	The Industrial Revolution: Early Modern Architecture, Japonisme, Art Nouveau	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 92-95 Review, Online research
7	The Birth of Photography: Inventors, Pioneers, Travel, War, Documentary, Portrait, Art	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 96-103 Review, Online research

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
8	Impressionism: Manet, Monet	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 104-109 Review, Online research
9	Impressionism: Renoir, Degas, Cassatt, Morisot	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 110-113, 133 Review, Online research
10	Modern Sculpture: Rodin vs. Brancusi	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 114-115 Review, Online research
11	Post-Impressionism: Seurat, Lautrec	Lecture, video, note-taking, talk, writing	Read text pp. 118-122 Review, Online research
12	Post-Impressionism: Gauguin, Van Gogh	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Bring colored pencils, markers, and / or pastels to class
13	Van Gogh: “The Sunflowers”	Art making activity	Read text pp. 123-125 Review, Online research
14	Early Expressionism: Munch, M-Becker Symbolism: Rousseau, Redon	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 128-133 Review, Online research
15	Fauvism: Matisse, Vlaminck, Derain, Dufy	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Submit Midterm Report; Bring Scissors, glue, colored paper
16	Matisse cutouts: Create a class mural	Art making activity	Read pp. 116-117, 136-138 Review, Online research
17	Cezanne, Picasso	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 139-145 Review, Online research
18	Futurism; Constructivism	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 146-147 Review, Online research
19	Modernist Architecture: Le Corbusier	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text p. 148 Review, Online research
20	Dada: Duchamp, Arp, Schwitters	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 149-151 Review, Online research
21	Surrealism: Miro, Ernst, Dali, Magritte	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 152-153 Review, Online research
22	20 th Century Photography: Cartier-Bresson	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 158-163 Review, Online research
23	Figural and Abstract Expressionism	Lecture, video Note-taking, talk, writing	Read text pp. 172-176 Review, Online research
24	Pre-Pop and Pop Art	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 177-179 Review, Online research
25	Minimal and Conceptual Art	Lecture, video, Note-taking, talk, writing	Read text pp. 188-189 Review, Online research
26	Post-Modernism: Diversity	Lecture, video Note-taking, talk, writing	Read text pp. 194-200 Submit Final Report w. P.A.R.
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Recent Trends 1990-2000	Lecture, video Note-taking, talk, writing	Read text from p. 200 to the end Review, Online research
28	Recent Trends 2001-2020	Lecture, slideshow, Course Survey	Last chance to submit the Final Report (will not be returned)

テキスト	Carol Strickland. <i>The Annotated Mona Lisa, Third Edition</i> (Andrews and McMeel).
参考書	<i>The Letters of Vincent Van Gogh</i> Online The Museum of Modern Art: Online Collection
その他 特記事項	All lectures and student writing will be entirely in English. Videos: English / Bilingual / Japanese And, as mentioned above, students must visit two museums and write two reports in English

科目名	EDU302: 比較・国際教育学					担当教員	杉村 美佳	
開講期	春	開講時限	火金4限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	教育の国際比較、教育問題、教育制度、教育政策、開発と教育、グローバル化と教育							
授業の概要	先進国と途上国における教育の現状や課題について、歴史、政治、経済、文化等と関連付けて概観し、比較・国際教育学の基礎理論を理解する。さらに、今日的教育課題である多文化教育、シティズンシップ教育、開発教育や国際教育協力等のあり方を国際的視点から考察する。最後に教育の国際比較をテーマにグループでレジюмеを作成し、プレゼンテーションを行う。							
達成目標(授業の目的)	比較・国際教育学の基礎理論を理解し、日本と諸外国の教育の現状や課題について、歴史的、政治的、経済的、文化的背景と関連付けて考察し、国際的視野から教育問題の解決に向けた方策を論じられるようになることを目標とする。							
到達目標(学修成果)	①日本と諸外国の教育制度や教育政策、教育問題等について、歴史、政治、経済、文化等と関連付けて考察する力を身につけ、比較・国際教育学の基礎理論を習得する。 ②比較・国際教育学の視点から教育事象を論理的、批判的に分析し、教育問題の解決に向けた方策を考察することができる。 ③各国の教育の現状や課題について、文献の内容をまとめてレジюмеを作成し、効果的に発表し、議論することができる。							
評価方法	①授業時に課すリアクション・ペーパー(30%)、②レジюме(15%)、③プレゼンテーション(15%)、④授業内試験(40%)							
評価基準	①リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ②レジюме：設定したテーマに即して参考文献の内容を的確にまとめ、教育事象を論理的、批判的に考察できているか。 ③プレゼンテーション：パワーポイントなど発表を効果的にする資料を準備し、研究内容をわかりやすく伝える工夫をしているか。 ④授業内試験：授業内容を理解し、設問に対して正確に解答できているかを評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	比較教育学の歴史的展開と課題	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付プリントの要約・考察
2	国際教育学の歴史的展開と課題	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教育の国際組織を調べる 配付プリントの要約・考察
3	教育制度の国際比較(1) —就学率・識字率—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	識字率について調べる 配付プリントの要約・考察
4	教育制度の国際比較(2) —学校教育制度の類型—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	英文記事の和訳 配付プリントの要約・考察
5	教育制度の国際比較(3) —教育制度改革の焦点—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	配付記事の要約・考察 配付プリントの要約・考察
6	先進国と途上国における児童労働の現状と撲滅に向けた課題	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	児童労働について調べる 配付プリントの要約・考察
7	先進国における学校化社会と学歴(1) —学校化社会と学歴社会—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	学歴社会について調べる 配付プリントの要約・考察

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	先進国における学校化社会と学歴(2) —ヨーロッパの非学歴社会—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付記事の要約・考察 配付プリントの要約・考察
9	先進国における生涯学習社会	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	配付記事の要約・考察 配付プリントの要約・考察
10	発展途上国における識字教育(1) —非識字者の分布と構成—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	識字教育について調べる 配付プリントの要約・考察
11	発展途上国における識字教育(2) —識字教育の取り組み—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	SDGsについて調べる 配付プリントの要約・考察
12	先進国における国民統合と学校教育(1) —新自由主義的教育政策—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	新自由主義について調べる 配付プリントの要約・考察
13	先進国における国民統合と学校教育(2) —多文化共生教育—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付資料の要約・考察 配付プリントの要約・考察
14	多文化教育の国際比較	講義・ディスカッション リアクションペーパー	多文化教育について調べる 配付プリントの要約・考察
15	発展途上国における国民統合と学校教育 —マレーシアを中心に—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付資料の要約・考察 配付プリントの要約・考察
16	世界のシティズンシップ教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	市民教育について調べる 配付プリントの要約・考察
17	開発と教育(1) —開発教育—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	開発教育について調べる 配付レジュメの要約・考察
18	開発と教育(2) —国際教育協力—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	国際教育協力を調べる 配付レジュメの要約・考察
19	開発と教育(3) —JICAによる国際教育協力の 実態—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	JICAについて調べる 配付レジュメの要約・考察
20	欧米の自由教育	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	自由教育について調べる 配付レジュメの要約・考察
21	小括と授業内試験	講義・質疑応答 授業内試験	20回目までの授業内容の復 習
22	試験の返却と解説・プレゼンテーションの 準備	講義・質疑応答 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
23	アジアの教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
24	中東の教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
25	西ヨーロッパの教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
26	北ヨーロッパの教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	アフリカの教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習
28	北米・中南米の教育	口頭発表・講評 リアクションペーパー	口頭発表の準備 配付レジュメの復習

テキスト	なし。毎回書き込み式講義ノートと新聞記事などの資料を配付する。		
参考書	石附実『比較・国際教育学』(東信堂) 二宮皓編著『世界の学校』(学事出版)		
その他 特記事項	JICAからゲストスピーカーを招き、日本の国際教育協力の実態について講義を行う。		

科目名	PHL310: 倫理学				担当教員	丹木 博一		
開講期	秋	開講時限	火金5限	研究室	4214	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1,4	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					1-①, 4-⑤	
キーワード	権利、所有、契約、主権、義務、自由、平和							
授業の概要	近現代の政治哲学の動向を幅広く概観し、個人と社会の望ましい関係はどのようなものか、また社会において私はいかに生きるべきかについて講義とディスカッションを通して考察する。							
達成目標(授業の目的)	「社会の中で人生をいかに生きるべきか」という問いを真剣に問い進め、自分の考えを築き上げることができる。							
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理学の歴史に登場する基本的な概念と学説を正しく把握し、それを表現できる。 ・行為選択の倫理的規範についての近現代の主要な議論を理解し、正しく表現できる。 ・倫理的な問いを提起し、その問いに関する自分自身の考えを説明できる。 							
評価方法	①提出課題(17%)、②リアクションペーパー(28%)、③中間レポート(2,000字以上)(25%)、④定期試験(選択式問題と小論文)(30%)							
評価基準	<p>提出課題：事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。</p> <p>リアクションペーパー：授業で説明された倫理学の基本的な概念と学説の意味を、自分の言葉で正しく論述できるかどうか。</p> <p>中間レポート：倫理学説を一つ取り上げ、それが行為選択のための倫理規範をどのように考えているかを自分の言葉でわかりやすく説明した上で、自分の意見を論述展開できるかどうか。</p> <p>定期試験：定期試験期間中に実施する。内容は以下の通り。いずれも持ち込み不可。</p> <p>(i) 選択式の問題を課す。教科書を正しく理解していること。10%</p> <p>(ii) 700～800字の小論文を作成してもらう。15回目以降の授業で取り上げた倫理学者のなかから一人を選び、その学説のポイントを説明した上で、理由を挙げて賛否を述べること。20%</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	導入 倫理学と政治哲学について	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①の「はじめに」を読んでおく。
2	封建国家と近代国家	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.15-27をていねいに読み、要約を提出する。
3	ボダンの主権概念	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.27-33をていねいに読み、要約を提出する。
4	ホッブズの自然権論	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.41-53をていねいに読み、要約を提出する。
5	ホッブズの設立によるコモン・ウェルス	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.54-67をていねいに読み、要約を提出する。
6	スピノザの反復的契約論	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.73-97をていねいに読み、要約を提出する。
7	ロックの所有権論	講義・DVD視聴・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.105-132を読んでおく。
8	ロックの自然権論	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.105-132をていねいに読み、要約を提出する。
9	ルソーの社会契約論	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.139-166をていねいに読み、要約を提出する。
10	ヒュームの共感概念	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.177-196をていねいに読み、要約を提出する。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	カントの義務倫理学	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.203-230を読んでおく。
12	カントの平和論	DVD 視聴・講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①pp.203-230をていねいに読み、要約を提出する。
13	ベンサムの功利主義	DVD 視聴・講義・ディスカッション・リアクションペーパー	ベンサムについて調べてくる。
14	ミルの功利主義	DVD 視聴・講義・ディスカッション・リアクションペーパー	中間レポート提出。J.S.ミルについて調べてくる。
15	古代ギリシアにおける民主主義	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.3-17をていねいに読み、要約を提出する。
16	ロールズのリベラリズム	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.19-69を読んでおく。
17	ロールズの平等主義	DVD 視聴・講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.19-69をていねいに読み、要約を提出する。
18	ノージックのリバタリアニズム	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.71-112を読んでおく。
19	リバタリアニズムとリベラリズムの関係	DVD 視聴・講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.71-112をていねいに読み、要約を提出する。
20	アリストテレスの徳倫理学	DVD 視聴・講義・ディスカッション・リアクションペーパー	アリストテレスの倫理学について事前に調べておく。
21	テイラーのコミュニタリアニズム	DVD 視聴・講義・ディスカッション・リアクションペーパー	チャールズ・テイラーについて事前に調べておく。
22	サンデルのコミュニタリアニズム	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.113-145をていねいに読み、要約を提出する。
23	フェミニズム	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.147-180をていねいに読み、要約を提出する。
24	コスモポリタニズム	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.181-211をていねいに読み、要約を提出する。
25	ナショナリズム	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.213-251をていねいに読み、要約を提出する。
26	これからの世界に向けて	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書②pp.254-262をていねいに読み、要約を提出する。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	政治哲学としての倫理学と個人の生き方としての倫理学	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	自分にとって重要な倫理学の問題は何かを考えてくる。
28	まとめ・期末試験のフィードバック	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	どの倫理学者に最も共感を覚えたかを考えてくる。

テキスト	① 國分功一郎『近代政治哲学—自然・主権・行政』(ちくま新書) ② 神島裕子『正義とは何か—現代政治哲学の6つの視点』(中公新書)
参考書	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(ハヤカワ文庫) 加藤尚武『現代倫理学入門』(講談社学術文庫)
その他特記事項	主体的な関心をもって授業に臨んで欲しい。分からない点や疑問がある場合は、どんどん質問してもらいたい。

科目名	SOC301: 平和と開発					担当教員	Thomas	
開講期	秋	開講時限	火金5限	研究室	4211	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-⑤	
キーワード	sustainable development, poverty eradication, universal education, gender equality, global partnership							
授業の概要	This course deals in detail with the “Sustainable Development Goals (SDGs)” initiated by the United Nations Organization in the year 2015. It will cover the seventeen SDGs and one hundred sixty nine targets and how they are built upon the “Millennium Development Goals” which ended in 2015. As part of assignments, students will be required to choose one of the seventeen goals and study how it is being implemented in one of the developing countries. Students are required to read the handouts beforehand and prepare for discussion in class.							
達成目標(授業の目的)	The general goals of this course are (1) to study the tasks left behind by the MDGs after fifteen years of hard labor to eradicate extreme poverty and (2) to learn the relevance of SDGs in the next fifteen years for the world, (3) to research on particular issues related to SDGs in different developing countries especially Africa and Asia today, and (4) to know the interrelatedness of development and peace.							
到達目標(学修成果)	<p>By the end of this course students will</p> <ul style="list-style-type: none"> • acquire a deeper understanding of the achievements of MDGs • know how MDGs led the world leaders to plan SDGs for the globe • know the importance of MDGs and SDGs for the future of the world • increase their awareness of critical issues in developing countries • improve their ability to do research on issues related to peace and development • learn to cooperate and contribute to group discussion and active class participation 							
評価方法	Class participation (40%), quiz (20%), Presentation (20%), Research report (20%)							
評価基準	To be distributed at the first class.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction to the course, course materials, class policies, evaluation criteria	lecture, discussion, Q&A	read syllabus
2	Developed countries and developing countries, OCED, G8, G20, BRICS	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
3	What is development? Relation between development and peace	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
4	Introduction to Millennium Development Goals (MDGs), history of MDGs	lecture, group work, discussion, quiz	read handouts, do preview sheet, prepare for quiz
5	Achievements of MDGs – Goals 1 - 4	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
6	Achievements of MDGs – Goals 5 - 8	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
7	From MDGs to Sustainable Development Goals (SDGs)	lecture, reading, group work, discussion, quiz	read handouts, do preview sheet, prepare for quiz
8	SDG 1: No poverty	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
9	SDG 2: Zero hunger	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
10	SDG 3: Good health and well-being	lecture, reading, group work, discussion, quiz	read handouts, do preview sheet, prepare for quiz
11	SDG 4: Quality education	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
12	SDG 5: Gender equality	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
13	SDG 6: Clean water and sanitation, group presentation	lecture, reading, group work, discussion	Prepare for group presentation
14	SDG 7: Affordable and clean energy, group presentation	lecture, reading, group work, discussion, quiz	read handouts, do preview sheet, prepare for quiz
15	SDG 8: Decent work and economic growth, group presentation	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
16	SDG 9: Industry, innovation and infrastructure, group presentation	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
17	SDG 10: Reduced inequalities, group presentation	lecture, reading, group work, discussion, quiz	read handouts, do preview sheet, prepare for quiz
18	SDG 11: Sustainable cities and communities, group presentation	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
19	SDG 12: Responsible consumption and production, group presentation	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
20	SDG 13: Climate action, group presentation	lecture, reading, group work, discussion, quiz	read handouts, do preview sheet, prepare for quiz
21	SDG 14: Life below water	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
22	SDG 15: Life on land	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
23	SDG 16: Peace, justice and strong institutions	lecture, reading, group work, discussion, quiz	read handouts, do preview sheet, prepare for quiz
24	SDG 17: Partnerships for the goals	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for discussion
25	Research presentation by students (group 1)	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
26	Research presentation by students (group 2)	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Research presentation by students (group 3)	lecture, reading, group work, discussion	read handouts, do preview sheet, prepare for presentation
28	Recap of the course, Submission of individual research report	discussion, feedback, Q&A	submit your research report

テキスト	Materials adapted from <i>The 2030 Agenda for Sustainable Development</i> and <i>The Sustainable Development Goals Report 2020</i> and <i>The Millennium Development Goals Report 2015</i> will be distributed in class.
参考書	Rorden Wilkinson and David Hulme (Eds.). <i>The Millennium Development Goals and Beyond</i> (Routledge).
その他特記事項	Since this course is offered in English, students are expected to read the handouts beforehand, check the meaning of new vocabulary, and prepare for discussion in every class.

科目名	LIT325: フランスの文化と文学				担当教員	谷口 清彦		
開講期	春/秋	開講時限	木5限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	フランス文学、フランス文化、ヨーロッパ							
授業の概要	19世紀から現代にいたるフランスの文学・哲学・芸術を通じてその文化をかんがえる。作品の要所(翻訳)を精読・分析する。フランス語学習者には原文も提示する。また、必要に応じて、関連映像や資料によってその背景となる史実を参照する。							
達成目標(授業の目的)	フランス文学・文化についての入門的な教養をえることが本講の目的である。							
到達目標(学修成果)	学生の自律的なフランス文化受容のために、主に19世紀以降におけるその代表的な文学・芸術・哲学の要所を理解し、史的文脈にもとづいてそれぞれの価値を判断できるようになる。							
評価方法	リアクションペーパー(50%)、学期末レポート(50%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 各授業でのテーマや内容が理解できているか(リアクションペーパー) 作品や作家の背景をふまえて、自分なりの視点から作品が受容できているか(学期末レポート) 							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス 批判的な文化受容のために：ジル・ドゥルーズによる作家という問い	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントを読んでおく
2	19世紀への導入にかえて：ジャン＝ジャック・ルソーと自然	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントならびにテキスト pp.113-118 を読んでおく
3	小説・自然・社会①：ヴィクトル・ユゴー	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントならびにテキスト pp.149-154 を読んでおく
4	小説・自然・社会②：オノレ・ド・バルザック	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントならびにテキスト pp.165-169 を読んでおく
5	詩と革命①：シャルル・ボードレー	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントならびにテキスト pp.193-196 を読んでおく
6	詩と革命②：アルチュール・ランボー	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントならびにテキスト pp.210-212 を読んでおく
7	印象派の美学	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントを読んでおく
8	20世紀への導入にかえて：マルセル・ブルーストと「真の生」	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントならびにテキスト pp.218-220 を読んでおく
9	アラン：幸福という義務	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントならびにテキスト pp.271-277 を読んでおく
10	シモーヌ・ヴェイユ：不幸の哲学	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントを読んでおく
11	アルベール・カミュ：暴力と小説	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントならびにテキスト pp.257-262 を読んでおく

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	ジャック・プレヴェール：万人の詩学	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントならびにテキスト pp.264-265 を読んでおく
13	ヌーヴェル・ヴァーグ：風景の映像学	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントを読んでおく 学期末レポートの作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめにかえて：ドゥルーズと創造行為の問い	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	配布プリントを読んでおく 学期末レポートの作成

テキスト	渡辺一夫ほか『増補 フランス文学案内』(岩波書店、1990年)。また、とりあげる作家(「テーマおよび学習内容」を参照)の小説・詩・哲学等からの抜粋をプリントで配布します。
参考書	保苺瑞徳編『ブルースト評論選Ⅰ 文学篇』(筑摩書房、2002年) ヴァルター・ベンヤミン、浅井健二郎編訳『パリ論/ボードレール論集成』(2015年)
その他 特記事項	フランス語学習者でなくとも受講できます。

科目名	LIT323: イギリスの文化と文学					担当教員	山本 浩	
開講期	春	開講時限	月木3限	研究室	4212	オフィスワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	イギリスの4つの国、英語、階級、教育、キリスト教、芸術、メディア、食文化							
授業の概要	イギリス(連合王国)を構成している England, Scotland, Wales, Northern Ireland とその民族、England の言語である英語の歴史と特徴、イギリス社会の中で階級がもつ意味、イギリスの初等・中等教育と高等教育の歴史と現在、イギリスのキリスト教の歴史、イギリスの芸術(とくに美術と演劇)、イギリスの新聞と放送の特徴、イギリスの食事と紅茶文化について学び、同時に、それに関連した文学作品を読む。							
達成目標(授業の目的)	イギリスと英語を理解するために、イギリスの文化のいろいろな面について学び、イギリスがどのような国であり、英語がどのような言語であるかが分かるようになることを目的とする。							
到達目標(学修成果)	イギリスの4つの国とその民族、英語の成り立ち・発展・現状、イギリス社会の階級、イギリスの教育、イギリスのキリスト教、イギリスの芸術、イギリスのメディア、イギリスの食文化について十分な理解があり、また、イギリス文学の中でそれらがどのように扱われているかを作品を通して理解できるようになっていることを到達目標とする。							
評価方法	テストおよび定期試験 50% 小論文 30% 授業への積極参加 20%							
評価基準	テストおよび定期試験: 授業で取り上げた4つの国、英語の歴史、階級、教育、キリスト教、芸術、メディアなどの基本的な事柄をよく理解しているかを見る。 小論文: 課題に沿った内容であるか、よく考えられた議論を展開しているかを見る。 授業への積極参加: 授業での質問・発言・意見表明など(リアクション・ペーパーの記述を含む)を積極的に行なったかを見る。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	イギリスの4つの国と民族(古代~中世)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
2	イギリスの4つの国と民族(近代~現代)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
3	イギリスの4つの国についての評論文	“Being British”の講読と研究	事前に“Being British”を読む
4	英語の歩み(Old EnglishからMiddle Englishへ)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
5	英語の歩み(Middle EnglishからModern Englishへ)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
6	OE、ME、ModEの実例	OE、ME、ModEの「主の祈り」を読む	事前に「主の祈り」(日本語および現代英語)を読む
7	イギリス社会の階級(階級とは何か)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
8	イギリス社会の階級(階級と英語)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	D. H. Lawrence, <i>Sons and Lovers</i> に見られる階級	<i>Sons and Lovers</i> の抜粋の講読と研究	事前に <i>Sons and Lovers</i> の翻訳を読む
10	テスト(45分)と1回～9回の授業の復習(45分)	テスト実施と復習	テストの準備学習をする
11	テストのふりかえり	テストの返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
12	イギリスの教育(初等・中等教育)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
13	イギリスの教育(高等教育)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
14	Roald Dahl, <i>Boy</i> に見られるイギリスの教育	Roald Dahl, <i>Boy</i> の講読と研究	事前に <i>Boy</i> の翻訳を読む
15	イギリスのキリスト教(古代～中世)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
16	イギリスのキリスト教(宗教改革～現代)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
17	Graham Greene, <i>The End of the Affair</i> に見られるキリスト教	<i>The End of the Affair</i> の講読と研究	事前に <i>The End of the Affair</i> の翻訳を読む
18	イギリスの芸術(美術)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
19	イギリスの芸術(演劇)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
20	イギリス演劇の一例として Harold Pinter, <i>Family Voices</i> を読む	<i>Family Voices</i> の講読と研究	事前に <i>Family Voices</i> の翻訳を読む
21	テスト(45分)と12回～20回の授業の復習(45分)	テスト実施と復習	テストの準備学習をする
22	テストのふりかえり	テストの返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
23	イギリスのメディア(新聞)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
24	イギリスのメディア(ラジオ・TV)	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
25	イギリスの食文化	パワーポイントを使用した講義	事前にパワーポイントのファイルを予習する
26	George Orwell, “A Nice Cup of Tea” を読む	“A Nice Cup of Tea” の講読と研究	事前に “A Nice Cup of Tea” の翻訳を読む
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	定期試験のふりかえり	定期試験の返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
28	小論文の講評	小論文を返却し講評する	返却された小論文を読み直す
テキスト	とくに使用しない。事前にパワーポイントのファイルをダウンロードして、授業前によく読んでおく。授業には、ファイルをプリントしたものを持参する。		
参考書	『イギリス文化事典』(丸善出版)		

科目名	LIT320: 演劇研究				担当教員	飯田 純也		
開講期	秋	開講時限	火金1限	研究室	4216	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	演劇、古代古典演劇、悲劇、喜劇、ソフォクレス、アリストファネス、シェイクスピア							
授業の概要	古代ギリシャの劇作家とシェイクスピアがどのように国家、自然、戦争、平和、男性、女性を描き、どのようなメッセージを残そうとしてきたのか検討する。学生は、配布資料(英文)を読みながらノートを取り、解釈や意見をまとめ、1人1回の口頭発表と7回の小論文提出(日本語で2,000字以上)を行う。期末レポート(日本語で8,000字以上)は、自ら選んだ作品とテーマで書く。							
達成目標(授業の目的)	この授業の目標は、思想史の視点から、学生が演劇の意義を理解し、演劇研究を通じて人文及び社会科学の理論を批判的に再検討することができるようになることである。同時に、毎回のパワーポイント資料(英語)等を読み、自らの意見を資料と照らし合わせながら、小論文を書く能力を身につけることである。							
到達目標(学修成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋文学の古典を物語として分析、批判、評価することができる 2. 作品が描く問題や課題を西洋文明の問題や課題として理解することができる 3. 作品で扱われている諸問題を人文科学、社会科学の視点から考えることができる 4. 問題意識をもって演劇作品を見る習慣ができる 5. 議論をまとめる能力を身につけることができる 							
評価方法	1. 小論文が7回の提出で計40%、2. 期末レポートが20%、3. 口頭発表が10%、4. 授業参加状況が30%。授業参加は毎回提出するシャトルカードによって評価する。							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業紹介 The origin of drama as ritual	講義、質疑応答、ディスカッション	百科辞典で授業のキーワードを調べる
2	演劇論 Tragedies and comedies	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料の予習
3	Sophocles, <i>Oedipus the King</i> (1) 物語の確認、分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
4	Sophocles, <i>Oedipus the King</i> (2) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
5	Sophocles, <i>Oedipus the King</i> (3) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
6	Sophocles, <i>Oedipus at Colonus</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
7	Sophocles, <i>Oedipus at Colonus</i> (2) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	小論文no.1の準備(提出は次回授業時)
8	Seneca, <i>Oedipus</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
9	Seneca, <i>Oedipus</i> (2) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	小論文no.2の準備(提出は次回授業時)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	プラトン vs アリストテレス (1) <i>Plato's Republic</i>	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、要点をノート
11	プラトン vs アリストテレス (2) <i>Aristotle's Poetics</i>	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、要点をノート
12	プラトン vs アリストテレス (3) <i>Aristotle's Nicomachean Ethics</i>	講義、学生発表、ディスカッション	小論文 no. 3 の準備(提出は次回授業時)
13	Sophocles, <i>Antigone</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
14	Sophocles, <i>Antigone</i> (2) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	小論文 no. 4 の準備(提出は次回授業時)
15	Shakespeare, Tragedies, <i>Hamlet</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
16	Shakespeare, Tragedies, <i>Hamlet</i> (2) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
17	Shakespeare, Tragedies, <i>King Lear</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
18	Shakespeare, Tragedies, <i>King Lear</i> (2) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	小論文 no. 5 の準備(提出は次回授業時)
19	Aristophanes, <i>Lysistrata</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
20	Aristophanes, <i>Lysistrata</i> (2) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	小論文 no. 6 の準備(提出は次回授業時)
21	Shakespeare, Comedies, <i>The Midsummer Night's Dream</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
22	Shakespeare, Comedies, <i>The Midsummer Night's Dream</i> (2) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
23	Shakespeare, Comedies, <i>Much Ado About Nothing</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
24	Shakespeare, Comedies, <i>Much Ado About Nothing</i> (2) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
25	Shakespeare, Comedies, <i>Twelfth Night</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答、ディスカッション	課題資料(英文)の予習、筋と要点をノート
26	Shakespeare, Comedies, <i>Twelfth Night</i> (2) 討論	講義、学生発表、ディスカッション	小論文 no. 7 の準備(提出は次回授業時)
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	期末レポート作成	グループワークで相互発表・評価	期末レポートの準備
28	学生発表 総括	ボランティア学生の発表、講評	期末レポートの提出

テキスト	課題資料(毎回取り扱う作品の英文テキスト)は事前にクラスで配布される。
参考書	Brown, John Russell, ed. <i>The Oxford Illustrated History of Theatre</i> (Oxford University Press, 1995). McDonald, Marianne, and J. Michael Walton, eds. <i>The Cambridge Companion to Greek and Roman Theatre</i> (Cambridge University Press, 2007). Kastan, David Scott, ed. <i>A Companion to Shakespeare</i> (Blackwell Publishers Inc., 1999).

科目名	LIT321: 小説研究				担当教員	永野 良博		
開講期	秋	開講時限	月木5限	研究室	4218	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	英米小説と研究資料読解、小説技法、批評理論、社会参加、疎外、排除、論文作成							
授業の概要	小説技法と批評理論への理解を深め、小説の主題として共同体や社会への参加、そこからの疎外や排除の問題を扱う。小説技法としてプロット、語り手、時間、性格、アイロニー、異化などを学び、批評理論として、ジャンル論、脱構築、精神分析、ジェンダー、マルクス主義、ポストコロニアリズム、新歴史主義などを学ぶ。扱う小説は、Mary Shelley 作 <i>Frankenstein</i> 、John Steinbeck 作 <i>Of Mice and Men</i> 、及び J.D. Salinger 作 <i>The Catcher in the Rye</i> 。							
達成目標(授業の目的)	基本的な小説技法と批評理論を理解し、それらを基に日々議論を行い、各自が小説に関する独自の論を発展させることが主な目的である。小説の読解を通じて創造的な文章の理解力を高め、第二次資料の読解を通じて、分析的、論理的、批判的な文章への理解力を高める。そして文学研究上重要な用語、概念、研究法に慣れ親しみ、小説に見出した問題を共同体や社会への参加やそこからの疎外や排除という問題と結び付け、研究上の主題を設定し、意見を発表し、議論を発展させる力を養う。また小説に関する論文作成力を身に付ける。							
到達目標(学修成果)	学期前半で小説技法と批評理論に関する用語と概念の基本的な意味を理解し、それを学期が進む中で小説の分析に応用し論じることが出来る。小説の比喩的な言語を理解し、人間の心、対話、行動、社会状況について独自の洞察を含む読解が出来る。主題として社会参加に問題を抱える人物と彼等を取り巻く状況を理解出来る。資料の内容理解を基に自らの意見を明確に口頭発表し、論文作成では小説研究の基本的方法を理解し、独自の論を発展出来る。							
評価方法	授業参加 (30%)、発表 (30%)、論文 (40%)							
評価基準	日々の授業参加では、小説技法と批評理論の基本事項を理解し、また小説の内容を正確に理解し、自らの想像力を駆使して得た洞察を含む意見を明確に述べることが求められる。口頭発表では、小説と第二次資料の内容の重要な点を適切に判断し理解した上で文章にまとめ、その上で自らの意見を明確で論理的に述べることが重要である。論文作成では、自分が研究対象として選んだ小説一作品を英語で読み、その内容に関して授業で扱った文学研究のアプローチを活用しながら、自ら設定した主題を明確に説明し、それを論理性と構成力を持って発展させ、意義ある結論に到達することが重要である。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	【小説技法導入】ストーリーとプロット 【小説作品導入】M. Shelley, <i>Frankenstein</i>	講義、議論	『批評理論入門』pp. 4-21 <i>Frankenstein</i> 第1巻
2	ストーリー、プロット、サスペンス 冒険家の手紙、生い立ち、母の死	講義、議論	『批評理論入門』pp. 4-21 <i>Frankenstein</i> 第1巻
3	語り手、枠物語、語り手の人称と信頼性 科学への傾倒、生命の根源への興味	講義、議論	『批評理論入門』pp. 22-33 <i>Frankenstein</i> 第1巻
4	焦点化、外的焦点化、内的焦点化 人造人間の制作、傲慢さがもたらすもの	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』pp. 34-47 <i>Frankenstein</i> 第1巻
5	提示と叙述、時間、速度 人造人間、醜悪さの他者性とその拒絶	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』pp. 48-62 <i>Frankenstein</i> 第1巻
6	性格描写、アイロニー、声 弟の死、召使の死	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』pp. 63-80 <i>Frankenstein</i> 第1巻
7	イメージラリー、反復、異化 憎悪、復讐、怪物の孤独	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』pp. 81-94 <i>Frankenstein</i> 第2巻

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	間テクスト性、メタフィクション、結末他者への偏見、共同体からの排除	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』 pp. 95-112 <i>Frankenstein</i> 第2巻
9	【批評理論】伝統、ジャンル、読者反応呪われし存在、伴侶の希求	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』 pp. 113-142 <i>Frankenstein</i> 第2巻
10	脱構築、精神分析 新たな人造人間の制作とその解体	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』 pp. 143-168 <i>Frankenstein</i> 第3巻
11	フェミニズム、ジェンダー、マルクス主義 怪物の復讐、花嫁の死、怪物の追跡	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』 pp.169-190 <i>Frankenstein</i> 第3巻
12	文化批評、ポストコロニアリズム 北極への旅、怪物の独白、孤独	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』 pp. 191-217 <i>Frankenstein</i> 第3巻
13	新歴史主義、文体論、透明な批評 <i>Frankenstein</i> まとめ	講義、発表、質疑応答、議論	『批評理論入門』 pp. 218-235 <i>Frankenstein</i> 第3巻
14	【小説作品導入、技法と理論応用】 <i>Of Mice and Men</i> 社会参加、社会不適合者の生	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Of Mice and Men</i> 第1-2章 『批評理論入門』 選択箇所
15	自律性、動物と人間の生の尊厳、生命剥奪、土地所有、人種差別、権利剥奪	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Of Mice and Men</i> 第3-4章 『批評理論入門』 選択箇所
16	社会不適合者と女性の抑圧、殺人、逃亡、友人の殺害、夢の崩壊	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Of Mice and Men</i> 第5-6章 『批評理論入門』 選択箇所
17	<i>Of Mice and Men</i> まとめ 小説技法と批評理論応用まとめ	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Of Mice and Men</i> 第1-6章 『批評理論入門』 選択箇所
18	【小説作品導入、技法と理論応用】 <i>The Catcher in the Rye</i> 追放、虚偽的社会的拒絶	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第1-3章 『批評理論入門』 選択箇所
19	隣人との関係、貧富の差、虚偽の友情、自己愛、嫉妬、弟の死、トラウマ	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第4-6章 『批評理論入門』 選択箇所
20	孤独、偽りの誠実さ、止まらない嘘、電話での繋がり、夜のホテル	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第7-9章 『批評理論入門』 選択箇所
21	妹との繋がり、他者への敬意の欠如、未成熟な異性への感情、虚偽的な夜の世界	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第10-12章 『批評理論入門』 選択箇所
22	売春、恐喝、階級差の認識、宗教に関する考察	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第13-15章 『批評理論入門』 選択箇所
23	深まる鬱状態、子供達との繋がり、役者の虚偽性、恋人、嫉妬、階級差と劣等感	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第16-18章 『批評理論入門』 選択箇所
24	精神治療、孤独と鬱状態、家への帰還、妹との対話	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第19-21章 『批評理論入門』 選択箇所
25	妹との対話、友人の自殺、父の仕事、教師との対話、転落の予感、同性愛	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第22-24章 『批評理論入門』 選択箇所
26	西部移住の空想、クリスマス、再生の可能性	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第25-26章 『批評理論入門』 選択箇所
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	<i>The Catcher in the Rye</i> まとめ 小説技法と批評理論応用まとめ	講義、発表、質疑応答、議論	<i>Catcher in the Rye</i> 第1-26章 『批評理論入門』 pp.4-235
28	論文概要発表	発表、質疑応答	論文概要作成

テキスト	1 廣野由美子『批評理論入門』(中公新書) 2 メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』芦澤恵訳(新潮文庫) 3 ジョン・スタインベック『ハツカネズミと人間』大浦暁生訳(新潮文庫) 4 J.D. サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』野崎孝訳(白水Uブックス) (上記2~4の小説の内で英語原書一冊)
------	--

科目名	LIT322: 映画と文学					担当教員	飯田 純也	
開講期	秋	開講時限	火金4限	研究室	4216	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	歴史、教訓、社会、戦争、反戦、虐殺、差別、SF、ユートピア、プロパガンダ、ゲーム							
授業の概要	映画と文学を物語として捉え、映画作品において、われわれの世界がどのように物語られているのか探求する。名作とされるものを多く取り上げ、作品の内容を理解する語学力、作品が取り上げる問題を分析、批判、議論する思考力と表現力を身につける。							
達成目標(授業の目的)	授業では毎回、映画作品を取り上げ、物語の内容を理解する語学力と、物語が描く「世界」「社会」「人間」を分析的、批判的、論理的に説明する思考力と表現力の獲得を目標とする。							
到達目標(学修成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 映画を物語として分析、批判、評価することができる 2. 映画が描く現代の問題や課題を理解することができる 3. 映画で扱われている諸問題を人文科学、社会科学の視点から考えることができる 4. 問題意識をもって映画を見る習慣ができる 5. 映画を語学教材として活用する習慣ができる 							
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> ①小論文、作品の背景を理解した上で、作品を分析、批判、評価できているか、計40% ②発表と定期試験、何が問題か理解できているか、問題を分析し、根拠を上げ、自分の文章で論述しているか、発表10%、定期試験30% ③毎回提出するシャトルカード、問題意識をもって映画を見る習慣ができているか、計20% 							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction to Film and Literature <i>Hugo</i> (2011)	講義、課題DVD視聴 リスト配布	課題リストを基にDVDの入手先を各自検討
2	discussion: <i>Hugo</i> <i>Cinema Paradiso</i> (1988)	講義、DVD視聴、ペ アワーク	課題DVDを視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
3	discussion: <i>Cinema Paradiso</i> Chaplin: <i>The Kid</i> , <i>Modern Times</i> , etc.	講義、DVD視聴、ペ アワーク	課題DVDを視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
4	discussion: <i>The Kid</i> , <i>Modern Times</i> , etc. Chaplin: <i>The Great Dictator</i> (1940)	講義、DVD視聴、ペ アワーク	課題DVDを視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
5	discussion: <i>The Great Dictator</i>	発表、ディスカッション	発表準備、小論文no.1の準備(提出は次回授業時)
6	Drama: <i>What's Eating Gilbert Grape</i> (1993), <i>Rain Man</i> (1988), <i>I Am Sam</i> (2001), etc.	講義、DVD視聴、ペ アワーク	課題DVDを視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
7	discussion: <i>WEGG</i> , <i>RM</i> , <i>IAS</i> , etc. Drama: <i>The Theory of Everything</i> (2014)	講義、DVD視聴、ペ アワーク	課題DVDを視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)
8	discussion: <i>The Theory of Everything</i> Epic: <i>War and Peace</i> , <i>Doctor Zhivago</i>	発表、ディスカッション	課題DVDを視聴、ノートの作成、発表準備
9	discussion: <i>War and Peace</i> , <i>Doctor Zhivago</i> Epic: <i>Dances with Wolves</i> , <i>Legends of the Fall</i>	講義、DVD視聴、ペ アワーク	課題DVDを視聴、ノートの作成(筋、人物、意見)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	discussion: <i>DWW</i> , <i>LOTF</i> Epic: <i>Les Misérables</i> (2012)	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの 作成(筋、人物、意見)
11	discussion: <i>Les Misérables</i>	発表、ディスカッショ ン	発表準備、小論文 no. 2 の準 備(提出は次回授業時)
12	SF: <i>Metropolis</i> , <i>2001: A Space Odyssey</i> , <i>The Time Machine</i> , <i>The War of the Worlds</i> , <i>Avatar</i>	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの 作成(筋、人物、意見)
13	discussion: SF films	発表、ディスカッショ ン	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
14	Dystopia: <i>Nineteen Eighty-Four</i> (1984), <i>The Hunger Games</i> (2012, 2013, 2014, 2015)	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの 作成(筋、人物、意見)
15	discussion: <i>The Hunger Games</i> trilogy	発表、ディスカッショ ン	発表準備、小論文 no. 3 の準 備(提出は次回授業時)
16	War: <i>The Cold Mountain</i> , <i>The Red Baron</i> , <i>A Bridge Too Far</i> , <i>Nuremberg</i> , etc.	発表、ディスカッショ ン	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
17	War: <i>Thirteen Days</i> (2000) discussion: <i>Thirteen Days</i>	発表、ディスカッショ ン	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
18	Propaganda: Eisenstein, Riefenstahl, <i>Casa- blanca</i> (1942), <i>Welcome to Sarajevo</i> (1998)	講義、DVD 視聴、ペ アワーク	課題 DVD を視聴、ノートの 作成(筋、人物、意見)
19	discussion: <i>Welcome to Sarajevo</i> Introduction to independent research	発表、ディスカッショ ン	発表準備、小論文 no. 4 の準 備(提出は次回授業時)
20	Music: <i>The Sound of Music</i> , <i>Amadeus</i> , <i>The Phantom of the Opera</i> , <i>La La Land</i> , etc.	講義、発表、ディスカ ッション	課題 DVD を視聴、ノートの 作成(筋、人物、意見)
21	discussion: Music films	発表、ディスカッショ ン	課題 DVD を視聴、ノートの 作成(筋、人物、意見)
22	Race: <i>The Color Purple</i> (1985), <i>12 Years a Slave</i> (2013)	発表、ディスカッショ ン、講義	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
23	Marriage: <i>Pride and Prejudice</i> (1995), <i>Bridget Jones</i> film series (2001, 2004)	発表、ディスカッショ ン、講義	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
24	Fantasy: <i>Harry Potter</i> , <i>Star Wars</i> , <i>The Lord of the Rings</i> film series	発表、ディスカッショ ン、講義	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
25	Japanese films: Kurosawa (<i>Seven Samurai</i> , etc.), Ozu (<i>Tokyo Story</i> , etc.)	発表、ディスカッショ ン、講義	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
26	Japanese films: Miyazaki (<i>Princess Monono-ke</i> , <i>Ponyo</i> , <i>From Up on Poppy Hill</i> , etc.)	発表、ディスカッショ ン	発表準備、小論文 no. 5 の準 備(提出は定期試験時)
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Romance: <i>Pretty Woman</i> , <i>50 First Dates</i> , <i>P.S. I Love You</i> , <i>The Notebook</i>	発表、講義、シャトル カードの返却	課題 DVD を視聴、ノートの 作成、発表準備
28	定期試験の返却と講評	講義、振り返り	シャトルカードの読み返しと 学修内容の振り返り

テキスト	テキストは使用しない。担当教員の作成するパワーポイント資料を使い授業を展開する。
参考書	Robert Sklar, <i>A World History of Film</i> (2003); Jill Nelmes, <i>Introduction to Film Studies</i> (2011); Edward Bernays, <i>Propaganda</i> (2005); Timothy Corrigan, <i>Film and Literature: An Introduction and Reader</i> (2012)

科目名	LNG310: 社会言語学				担当教員	神谷 雅仁		
開講期	春	開講時限	月木3限	研究室	4215	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	言語コミュニティ、地域方言、社会方言、多言語主義、Style shift、Politeness、文化							
授業の概要	本講は言語学の中でも社会言語学と呼ばれる分野の入門編という位置付けのもと、言語をそれが使われる社会との関係から考察していく。各単元の学修内容は言語選択やポライトネス理論、社会方言など社会言語学の中でも中核を成す内容を中心に構成される。授業はテキストの内容をまとめたレジュメ、および関連する内容についてのハンドアウトを中心に講義形式で進められ、理解定着のため必ず単元ごとに既習内容のreviewを行う。							
達成目標 (授業の目的)	本講で対象となる言語社会は多くの学生にとっての母語である日本語社会、および様々な英語圏の国・地域で使用される英語のコミュニティが中心となるが、ヨーロッパやアジアなど、その他の地域に関する言語状況などについても概観する。そのため、学生は人が社会の中でどのように言葉を選択し、それを使用しているかについて幅広い、グローバルな視点に立って考えることができるようになる。							
到達目標 (学修成果)	上記の達成目標のもと、学生は言語使用や言語バリエーションに関する様々な概念や理論に触れ、日本語や英語、また他の言語が各言語コミュニティの中でどのような状況に置かれているのかについて、客観的に認識できるようになる。同時に自らの言語生活を振り返ることで、いつどこでどのような言葉を使っているか、そして自らの母語（および第二言語）がどのように自らのアイデンティティ形成に関与しているかについて考察することができるようになる。							
評価方法	▶中間試験（30%）、▶期末試験（40%）、▶Research Assignment（20%）、▶授業参加度（10%）							
評価基準	▶中間試験、および期末試験（客観式）：試験までの学修内容について、用語、概念、理論的枠組みなどが言語例とともに理解され、定着しているかが問われる。特に記述形式の問題については、用語／概念の定義に始まり、言語例を用いた説明がしっかりなされているか、そして指示に従ったかたちで過不足なく論じられているかが問われる。 ▶Research assignment：学期を通して学ぶいくつかのテーマには、それをさらに学生が自ら調べ、まとめるという課題が課せられる。この課題は（1）指示通りに調べたことがまとめられているか、（2）それを自分自身の言語観や日常の言語使用、また経験に照らし合わせ、より深く議論できているか、という2点において評価される。 ▶授業参加度：授業内での講義を聞く態度、グループ活動への積極参加、発言の回数と妥当性							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Course overview & What is language? 本講の概観&言語とは何か	講義、グループワーク、ディスカッション	テキストのまえがきを読む 言葉について考える
2	What is Linguistics? 言語学という分野を概観する	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.1）、レジュメの予習・復習
3	What is Sociolinguistics? 社会言語学という分野を概観する	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.1）、レジュメの予習・復習
4	Multilingualism 多言語社会	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.2）、レジュメの予習・復習
5	Diglossia & Domain 2言語併存の状況	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.2）、レジュメの予習・復習
6	Code-switching: Why do we code-switch? なぜコードスイッチするのか	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.2）、レジュメの予習・復習
7	Code-switching: How do we code-switch? どのようにコードスイッチするのか	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.2）、レジュメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	Language death: “Ainu Rebels” 言語の死: “Ainu Rebels”	講義、ディスカッション、DVD視聴	テキストを読む(ch. 2)、レジュメの予習・復習
9	Language death 言語の死: 絶滅危惧言語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 2)、レジュメの予習・復習
10	Pidgin and Creole ピジン語とクレオール語: その背景と特徴	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 2)、レジュメの予習・復習
11	Pidgin and Creole ピジン語とクレオール語: 広がりと言語的発達	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 2)、レジュメの予習・復習
12	Regional variations: Dialect and language 地域方言: 方言と言語 前半のまとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 3)、レジュメの予習・復習
13	Mid-term Test 中間試験 Regional variations: Dialects in America	講義、質疑応答 試験実施	前半の振り返り、レジュメの復習、テスト準備
14	Test review 試験結果の返却、および解説 World Englishes: 国際語としての英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 3)、レジュメの予習・復習
15	Social variations: Studies by Labov 社会方言: Labovの調査研究	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 3)、レジュメの予習・復習
16	Social variations: social class and gender 社会方言: 社会階級、性差	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 3)、レジュメの予習・復習
17	Social variations: ethnicity and age / generation 社会方言: 人種・民族、年齢・年代	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 3)、レジュメの予習・復習
18	Audience Design オーディエンス・デザイン	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 4)、レジュメの予習・復習
19	Accommodation Theory アコモデーション理論	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 4)、レジュメの予習・復習
20	Politeness: Its background ポライトネス: その背景	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 4)、レジュメの予習・復習
21	Politeness: B & L's politeness ポライトネス: ブラウン&レビンソン	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 4)、レジュメの予習・復習
22	Sexist language use 性差別的言語使用	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 5)、レジュメの予習・復習
23	Cross-cultural Communication: Culture & Context 異文化コミュニケーション: 文化	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 5)、レジュメの予習・復習
24	Cross-cultural Communication: Sapir-Whorf Hypothesis サピア=ウォーフ仮説	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 5)、レジュメの予習・復習
25	Language policy 言語政策	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 5)、レジュメの予習・復習
26	Language plans 言語計画 Review of the second half 後半のまとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch. 5)、レジュメの復習、テスト準備
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Think about language and identity 言語とアイデンティティーについて考える	講義、ディスカッション、質疑応答	関連する配布物の予習
28	Test review 定期試験の返却、および解説 Course review 全体のまとめ	講義、質疑応答	テスト問題の見直し

テキスト	東照二(著)『社会言語学入門』(研究社)
参考書	飯野公一ほか(著)『新世代の言語学』(くろしお出版) Wardhaugh, R. <i>An Introduction to Sociolinguistics</i> (Blackwell).
その他 特記事項	本講の履修には「言語学概論」が履修済みか、同時履修している、あるいは言語系のゼミナールに所属していることが望ましい。どれにも該当しない場合には、担当教員と要相談。

科目名	LNG305: 音声学				担当教員	吉田 夏也		
開講期	秋	開講時限	火金3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	音声学・言語学・音響・知覚・生理							
授業の概要	日本語や英語をはじめとした言語の音声的特徴を理解するためには、音声学的知識を持っていることが必須である。この授業では、生成・伝達・知覚という3つの側面から、世界のさまざまな言語音声を比較することによって、言語音の特徴を学習する。							
達成目標 (授業の目的)	この授業は、音声に関する幅広い知識とその知識を使って言語音を観察する手法を身につけることを目的としている。同時に、音声学という学術領域を理解することも目的としている。							
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と英語の音声に関する知識が身につく ・言語音の特徴が理解できるようになる ・自分や他人の発音を客観的に観察できるようになる ・音声学の分析手法と考え方が説明できるようになる 							
評価方法	授業内試験（3回程度実施するが、受講生の理解度に応じて実施回数は増減することがある） 60%；理解度チェック問題 40%							
評価基準	授業内試験によって、音声に関する知識の理解、および言語音の特徴の理解と音声学領域の理解を評価する。 理解度チェック問題は主に言語音に関する観察と補助的な知識の理解を評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	言語学・音声学とは	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
2	音響音声学【音の物理的側面：表示①】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
3	音響音声学【音の物理的側面：性質】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
4	音響音声学【音の物理的側面：伝播】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
5	音響音声学【音の物理的側面：動的性質】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
6	音響音声学【音の物理的側面：音の単位】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
7	音響音声学【音の物理的側面：表示②】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、試験の準備
8	まとめとテスト	講義・試験	授業内容の復習、次回レジメの予習
9	調音音声学【発音と体の仕組み】	講義・実践・質疑応答・試験返却と講評	授業内容の復習、次回レジメの予習
10	調音音声学【発声】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	調音音声学【発音をする場所】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
12	調音音声学【発音の運動】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
13	音響音声学【母音の音響的特徴】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
14	音響音声学【子音の音響的特徴】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
15	音響音声学【言語音の線形モデル】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
16	音響音声学【言語音の表示方法】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、試験の準備
17	まとめとテスト	講義・試験	授業内容の復習、次回レジメの予習
18	日本語と英語の音響的特徴	講義・実践・質疑応答・試験返却と講評	授業内容の復習、次回レジメの予習
19	日本語と英語の韻律的特徴	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
20	聴覚音声学【聴覚の仕組み】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
21	聴覚音声学【聴覚神経情報の仕組み】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
22	聴覚音声学【聴覚心理：音の大きさ】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
23	聴覚音声学【聴覚心理：マスキング】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
24	聴覚音声学【聴覚心理：臨界帯域】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
25	聴覚音声学【聴覚心理：音の高さ】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、次回レジメの予習
26	聴覚音声学【聴覚心理：聴空間知覚】	講義・実践・質疑応答	授業内容の復習、試験の準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	まとめとテスト	講義・試験	授業内容の復習、次回レジメの予習
28	すべてのまとめ	講義・試験返却と講評	授業内容の復習

テキスト	講義内容に関する資料を moodle 上に置きます。各自プリントアウトしてください。
------	--

科目名	LNG330: 日本語学				担当教員	宮崎 幸江	
開講期	秋	開講時限	月 4 限	研究室	4217	オフィスアワー P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-⑤	
キーワード	日本語の音韻論、統語論、語用論、社会言語学						
授業の概要	日本語のしくみについて、音韻論、統語論、形態論、意味論、語用論、社会言語学等を分野別に学ぶ。例えば、音韻論では、日本語の母音や子音の種類と分布の特徴、アクセントの型などを学び、統語論では文の構造について、形態論では語の成り立ちや動詞の活用について学ぶ。授業では、講義だけではなく毎回ディスカッションの時間を設け、文法の暗記ではなく自分達で日本語の構造を考えていく。						
達成目標(授業の目的)	本科目は、日本語学習者から見た日本語の構造を理解し、説明する知識を身につけることを目的としている。						
到達目標(学修成果)	高校まで習ってきた学校文法とは異なる文法へのアプローチを身に付け、日本語をひとつの言語として客観的に捉えられるようになる。日本語と英語の構造や言語使用の語用論的な違い、世代差や地域差などを分析し、データや例文を提示しながら記述できるようになる。						
評価方法	① 授業への積極参加 20% ② 小テスト 30% ③ 定期試験 50%						
評価基準	① 授業への参加：授業内のディスカッションや発言を評価する。 ② 小テスト：高校まで習ってきた学校文法とは異なる文法理解を評価する。 ③ 定期試験：日本語をひとつの言語として客観的に捉え、日本語の言語使用をデータや例文を提示しながら記述できるかどうか評価する。						
準備学修の時間	本科目の一回（100 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 190 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	日本語の音と形 発音、特殊拍	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書全体を概観してくる。
2	日本語の音と形 五十音、音素と異音	講義、ディスカッション、質疑応答	発音、特殊拍の復習と 8～12 頁を読む。
3	日本語の音と形 アクセント、短縮語 小テスト	講義、ディスカッション、質疑応答	13～20 頁を読む。小テストの準備。
4	日本語の文法 動詞の活用	講義、ディスカッション、質疑応答	アクセント、短縮形の復習と 21～24 頁を読む。
5	日本語の文法 格助詞	講義、ディスカッション、質疑応答	動詞の活用の復習と 25～27 頁を読む。
6	日本語の文法 使役 試験の返却及び解説	講義、ディスカッション、質疑応答	格助詞の復習と 28～30 頁を読む。
7	日本語の文法 受身	講義、ディスカッション、質疑応答	使役の復習と 31～34 頁を読む。
8	日本語の文法 テンス、モダリティ 小テスト	講義、ディスカッション、質疑応答	受身の復習と 35～42 頁を読む。小テストの準備。
9	日本語らしい表現 省略、「は」と「が」、とりたて助詞	講義、ディスカッション、質疑応答	テンス、モダリティの復習と 43～50 頁を読む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	日本語らしい表現 授受表現、試験の返却及び解説	講義、ディスカッション、質疑応答	「は」と「が」の復習と 51～56 頁を読む。
11	日本語らしい表現 敬語、中間言語 小テスト	講義、ディスカッション、質疑応答	授受表現の復習と 57～64 頁を読む。小テストの準備。
12	日本語の変化と多様性 ら抜きことば	講義、ディスカッション、質疑応答	敬語、中間言語の復習と 65～70 頁を読む。
13	日本語の変化と多様性 方言、言葉の位相 試験の返却及び解説	講義、ディスカッション、質疑応答	ら抜きことばの復習と 69～83 頁を読む。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	試験の返却、および講評	質疑応答、ディスカッション	テスト問題の範囲の見直し。
テキスト	庵功雄、日高水穂、前田尚子、山田敏弘、大和シゲミ『やさしい日本語のしくみ』(くろしお出版)		

科目名	LNG302: 語用論				担当教員	近藤 佐智子		
開講期	秋	開講時限	月木2限	研究室	4208	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	言語学、会話、異文化間語用論、発話行為、ポライトネス、含意							
授業の概要	会話における相互理解の仕組みに関する語用論の理論を理解した上で、日本人が英語で「断り」や「依頼」などの発話行為をする場合、どのような誤解が起こりうるのか、異文化間コミュニケーションや英語学習の視点から考察する。授業は、講義と練習問題、質疑応答、ロールプレイ、グループディスカッションによって進める。最後に受講者は各自実際に会話を語用論的視点で分析する研究プロジェクトを行い、レポートにまとめ口頭発表する。							
達成目標(授業の目的)	実際に会話を行う際の相互理解のプロセスについて理解を深めることを目標とする。語用論の理論について学んだ上で、実際に会話を分析することによって、言語に関する理解を深めると同時に分析結果を発表する力をつける。また、異文化間語用論的視点で日本語と英語を比較することによって、英語でのコミュニケーション能力を高める。							
到達目標(学修成果)	会話の仕組みについての語用論の理論を理解し、具体例を挙げて理論を説明できるようになる。文化的価値観が言語使用にどのような影響を与えるかを理解し、日本語と英語を比較する力をつける。相手に失礼にならないような、状況に合った適切な英語を使用する力をつける。映画やドラマの中の会話を語用論的視点で分析し、その結果を書面(レポート)と口頭で表現できるようになる。							
評価方法	小テスト2回(40%) レポート(20%) 発表(20%) 授業時の積極参加(20%)							
評価基準	<p>小テスト2回(40%) 小テスト1(20%) 具体例を挙げて理論を論理的に説明できるか。語用論の用語を理解しているか。</p> <p>小テスト2(20%) 例を挙げて会話分析、異文化間語用論の用語を論理的に説明できるか。英語での発話行為を適切に行うことができるか。</p> <p>レポート(20%) 理論の紹介が適切に行われているか。語用論的視点から会話を分析できているか。論理的に分かりやすく書かれているか。書式が守られているか。</p> <p>発表(20%) 発表の内容(理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたか、的確に要点を捉えているか) 発表の態度(声の大きさ、話し方などが効果的か)</p> <p>授業時の積極参加(20%) 課題を積極的におこなったか。グループディスカッションやロールプレイに積極的に参加したか。Participation Work Sheet 5回の提出とその内容の質。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	導入：授業の概要と評価方法 What is Pragmatics? (語用論とは何か)	講義、ディスカッション	テキスト15-22頁を読む
2	What is Pragmatics? (語用論とは何か)：状況の中での発話の意味	講義、ディスカッション	テキスト15-22頁を読む
3	Greeting (挨拶)	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト1-8頁を読む
4	Communicative Competence (言語運用能力)	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト9-15頁を読む
5	Speech Acts (発話行為)：理論と分類	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト23-30頁を読む
6	Speech Acts (発話行為)：間接発話行為	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト47-54頁を読む
7	Conversational Implicature (会話による含意)：協調の原則	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト39-46頁を読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	Conversational Implicature (会話による含意): 会話の分析	講義、ビデオ視聴 ディスカッション	テキスト 39-46 頁を読む
9	Politeness (ポライトネス): Brown & Levinson の理論	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト 55-63 頁を読む
10	Politeness (ポライトネス): Leech の理論	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト 64-71 頁を読む
11	日本語と英語のポライトネス	講義、ディスカッション	資料「日英のポライトネス」を読む
12	小テスト 1 (40 分) 復習 (60 分)	小テスト、講義 ディスカッション	小テストのための復習
13	会話分析: 隣接応答ペア	講義、ペアワーク、ディスカッション	資料「会話分析: 隣接応答ペア」を読む
14	会話分析: 修復 小テスト 1 の返却、および講評	講義、ディスカッション	資料「会話分析: 修復」を読む
15	会話分析: 優先構造	講義、ペアワーク、ディスカッション	資料「会話分析: 優先構造」を読む
16	語用論的視点からの会話の分析 (レポートと発表について)	ビデオ視聴、講義、ディスカッション	談話完成タスク 発表の題材を考える
17	Cross-cultural Pragmatics (異文化間語用論)	講義、ペアワーク、ディスカッション	テキスト 80-86 頁読む
18	日英比較: Apologies (謝罪) ワークシート①	ロールプレイ、ディスカッション、講義	資料「Apologies」を読む テキスト 31-38 頁を読む
19	日英比較: Requests (依頼) ワークシート②	ロールプレイ、ディスカッション、講義	資料「Requests」を読む テキスト 72-79 頁を読む
20	日英比較: Compliments and Responses to Compliments (誉め)、ワークシート③	ロールプレイ、ディスカッション	資料「Compliments」を読む
21	日英比較: Refusals (断り) ワークシート④	ロールプレイ、ディスカッション	資料「Refusals」を読む
22	日英比較: Complaints (不満表明) ワークシート⑤	ロールプレイ、ディスカッション	資料「Complaints」を読む レポート作成
23	小テスト 2 (40 分) 復習 (60 分)	小テスト、講義 ディスカッション	小テストのための復習
24	語用論的視点からの会話の分析 (発表)	学生の発表 ディスカッション	発表の準備 レポート作成
25	語用論的視点からの会話の分析 (発表)	学生の発表 ディスカッション	発表の準備 レポート作成
26	語用論的視点からの会話の分析 (発表)	学生の発表 ディスカッション	発表の準備 レポート作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	語用論的視点からの会話の分析 (発表)	学生の発表 ディスカッション	発表の準備 レポート作成
28	小テスト 2 の返却、および講評 レポート提出、復習と総括	講義、ディスカッション	レポート提出

テキスト	田中典子『プラグマティクス・ワークショップー身のまわりの言葉を語用論的に見る』(春風社)、配布資料
参考書	岡本真一郎(編)『ことばのコミュニケーション』(ナカニシヤ出版) ヘレン・スペンサー＝オーティエ(編著)『異文化理解の語用論』(研究社)
その他 特記事項	テキストと資料は日本語と英語で書かれているので、日本語と英語での予習復習が必要である。

科目名	ENG360: 英語史				担当教員	山本 浩		
開講期	秋	開講時限	月木4限	研究室	4212	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	英語の史的理解、標準英語と多様な英語、英語と階級・文学・宗教・政治・メディア							
授業の概要	現代の国際語としての英語の考察から始め、同時に地球の様々な地域で発達する英語について視野を広げてゆく。その後、英語の歴史的变化の問題を扱ってゆく。中心的な問題は、古英語、キリスト教文献、ノルマン語の流入と中英語への変化、中英語の詩及び劇、印刷技術の発達、近代英語の発達とシェイクスピアの英語、近現代の英語、英語と階級、アメリカ英語を扱う。							
達成目標(授業の目的)	古英語、中英語、近代英語、現代英語の特徴を理解し、語彙、文法、発音等の身近な問題について歴史的観点から理解することを主な目的とする。英語史に必要な用語・概念を英語で理解し、英語による文献読解力を身につける。そして英語の発達を、英国史、世界史、英文学史と繋げる視点と知識を得る。							
到達目標(学修成果)	英語という言語内の個々の単語、文法、表現を、それらの背後にある歴史的事象等と密接に結びつけ、言語を重層的に理解出来るようになる。英語史発展と関連が深い英国史、世界史、英文学史上の事象についても基本的知識を持つ。英語文献の正確な理解を、語彙、文法、文章構造の理解等と共に行えるようにする。							
評価方法	授業参加：20% テストおよび定期試験：80%							
評価基準	テストおよび定期試験：古英語、中英語、近代英語のそれぞれの特徴と、英語の変遷に関する知識を得ているか、また、英国史、世界史、英文学史と英語の歴史との関係についての知識を得ているかを見る。 授業参加：授業での質問に答えたか、積極的に質問や意見を述べたかを見る(リアクション・ペーパーの記述も含む)。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	英語の現在	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
2	ケルト人、ローマ人、ゲルマン人	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
3	比較言語学とインド・ヨーロッパ語族	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
4	インド・ヨーロッパ語族の諸言語ーインド・イラン語派、ギリシア語など	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
5	インド・ヨーロッパ語族の諸言語ーイタリアック語派、ケルト語派、ゲルマン語派など	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
6	ゲルマン人と古英語	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
7	古英語の特徴	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
8	古英語の文学	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	テスト(45分)と1回~8回の授業の復習(45分)	テストとテストに基づく復習	テストの準備学習をする
10	テストのふりかえり	テストの返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
11	ノルマン征服と中英語	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
12	中英語の特徴	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
13	中英語の文学(チャオサー)	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
14	中英語の文学と時代	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
15	大母音推移と印刷術の発達	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
16	ヨーロッパとイングランドのルネサンス	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
17	チューダー朝と宗教改革	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
18	テスト(45分)と11回~17回の授業の復習(45分)	テストとテストに基づく復習	テストの準備学習をする
19	テストのふりかえり	テストの返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
20	近代英語の始まりとシェイクスピア	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
21	シェイクスピアの英語	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
22	英語の規範化	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
23	イギリスの階級	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
24	英語と階級、Queen's English, BBC English, RP	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
25	英語の方言	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
26	イギリス英語とアメリカ英語	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	19回~26回の授業の復習と定期試験のふりかえり	定期試験に基づく復習、定期試験の返却、および解説	間違えた箇所、理解できていなかったところを復習
28	英語史の総まとめ	講義と質疑応答	事前にパワーポイントのファイルを予習する

テキスト	特定の教科書は使用しない。事前に配布されるパワーポイント資料を事前にプリントして予習し、授業の時に持参する。
参考書	寺澤盾『英語の歴史—過去から未来への物語』中公新書1971(中央公論新社) 中尾俊夫・寺島廸子『図説 英語史入門』(大修館書店)

科目名	LNG320: バイリンガル教育				担当教員	宮崎 幸江	
開講期	春	開講時限	木4限	研究室	4217	オフィスワー P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要				学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-①	
キーワード	バイリンガル、母語、継承語、アイデンティティ						
授業の概要	バイリンガルの言語習得や文化習得に関する応用言語学の理論とバイリンガル教育の方法、日本と海外のマルチリンガル教育の現状について学ぶ。カナダやアメリカなどの言語政策の背景にある歴史や政治的な出来事についても理解し、バイリンガリズムを多文化共生的な視点で考えていく。						
達成目標 (授業の目的)	本科目は、バイリンガルの言語発達や言語教育の方法を理解し、日本人が海外で育った場合の日本語保持や、日本国内に住む外国人の子どもたちの教育課題についてもバイリンガル教育の観点から理解できるようになる。						
到達目標 (学修成果)	① バイリンガルとモノリンガルの言語発達の違いや特徴、教育方法を学ぶことにより、多文化を持つ人々の問題を理解できるようになる。 ② バイリンガリズムに関するテーマに関して、専門的な知見を理解し、用語を用いて分析し記述できるようになる。						
評価方法	① 授業への積極参加 15% ② 小テスト・宿題 40% ③ 定期試験 45%						
評価基準	① 授業への積極参加：発言やディスカッションへの貢献を評価する。 ② 小テスト・宿題：理論や専門用語など授業内容の基礎的な理解を評価する。 ③ 定期試験（記述式）：バイリンガルとモノリンガルの言語発達の違いや特徴、教育方法を理解し、バイリンガリズムに関する現象や政策、問題等についても専門的な知見を用いて分析し記述できるか評価する。						
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	第1章 バイリンガルとは 母語と第2言語の違いについて	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書第1章を読む、ノートまとめる。
2	第1章 小テスト グローバル化と人の移動	質疑応答、ディスカッション	小テストの準備。
3	第2章 子どもの母語の発達と年齢 保護者の役割 試験の返却及び解説	講義、発表、ディスカッション	第2章を読んで、ノートにまとめる。
4	第2章 小テスト 第3章 バイリンガル教育の理論	質疑応答、講義、発表	小テストの準備。
5	第3章 バイリンガル教育の理論 社会心理的要因と言語の発達	講義、発表、ディスカッション	第3章を読んでノートにまとめる。
6	第4章 家庭で育てるバイリンガル 試験の返却及び解説	講義、発表、ディスカッション	第4章を読んでノートにまとめる。
7	第3～4章 小テスト 第5章 カナダのフレンチイマージョン	質疑応答、ディスカッション、講義	小テストの準備。
8	第5章 イマージョン方式のバイリンガル教育 イマージョン方式の種類	講義、発表、ディスカッション	第5章を読んでノートにまとめる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	第6章 年少者英語教育とバイリンガル試験の返却及び解説	質疑応答、ディスカッション、講義	小テストの準備。
10	第7章 マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育	講義、発表、ディスカッション	第7章を読んでノートにまとめる。
11	第5～7章 小テスト 第8章 海外子女とバイリンガル教育	質疑応答、ディスカッション、講義	小テストの準備。
12	第9章 日系人子女とバイリンガル教育 継承語としての日本語教育	質疑応答、ディスカッション、講義	第9章を読んでノートにまとめる。
13	第10章 バイリンガルと文化の習得 試験の返却及び解説	講義、発表、ディスカッション	第10章を読んでノートにまとめる。
定期試験を実施する Final Exam will be held			
14	試験の返却、および講評	質疑応答、ディスカッション	テスト問題の範囲の見直し。
テキスト	中島和子『完全改訂版 バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること』(アルク)		

科目名	JPN301: 日本語教授法				担当教員	宮崎 幸江	
開講期	秋	開講時限	木4限	研究室	4217	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-①	
キーワード	日本語教育、成人学習者、地域日本語教育						
授業の概要	日本語教育の現場は、80%がボランティアによる地域日本語教室であると言われている。本学サービスラーニングだけでなく、将来日本語非母語話者に対して日本語を教える機会に遭遇した際、学習者のニーズを理解しよい人間関係を築きながら、日本語を教える方法を学ぶ。クラスでは、学生が学習者となり実際に教える場面を想定して模擬授業も行ない、マンツーマンでの日本語の教え方を学ぶ。						
達成目標(授業の目的)	この授業では、地域日本語教室等で成人学習者への日本語の教え方を具体的に学び、教科書に従い、日本語のしくみや表現について理解し、レッスンを組み立て、実施できるようになることを目的とする。						
到達目標(学修成果)	① 日本語学習者の日本語レベルに合わせてコミュニケーションがとれるようになる。 ② 学習者の経験や文化を尊重し、互いに学びあうことができる。 ③ 日本語学習者と協働し、多文化共生の実現に向けて行動できるようになる。						
評価方法	① 授業への積極参加 30% ② レッスンプラン 30% ③ 模擬授業 40%						
評価基準	① 授業への積極参加：授業での発言やグループワークへの貢献を評価する。 ② レッスンプラン：内容をよく理解し授業計画がたてられているか、実践可能な教案を作成できるか、使用する言語は学習者のレベルに相応しいものかを評価する。 ③ 模擬授業：実践のスムーズさ、スキヤフオールディングの質等を総合的に評価する。						
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	日本語学習者の多様化、日本語教育の概要	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書全体を概観してくる。
2	地域日本語教室で学ぶ学習者のニーズ	講義、ディスカッション、質疑応答	はじめにを読む。
3	やさしい日本語という考え方 第1課 おなか が すきました	講義、ディスカッション、質疑応答	第1課(14~17頁)を読む。
4	日本語の文法 動詞と形容詞 第2課 わたし の プロフィール	講義、ディスカッション、質疑応答	第2課(18~21頁)を読む。
5	日本語の文法 活用 て形のルール	講義、ディスカッション、質疑応答	第3課(22~25頁)を読む。
6	文字の導入(ひらがな カタカナ 漢字) レッスンプランの作り方	講義、ディスカッション、質疑応答	第4課(14~17頁)を読む。
7	教具(文字カード、絵カード)について 第3課 わたし の いちにち	講義、ディスカッション、質疑応答	模擬授業準備。
8	模擬授業1 第4課 まち の じょうほう いろいろ	講義、ディスカッション、質疑応答	模擬授業準備、模擬授業の観察フィードバックを書く。
9	模擬授業2 第5課 りょこう を しました	講義、ディスカッション、質疑応答	模擬授業準備、模擬授業の観察フィードバックを書く。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	模擬授業3 第6課 わたし の いちねん	講義、ディスカッション、質疑応答	模擬授業準備、模擬授業の観察フィードバックを書く。
11	模擬授業4 第7課 おかねがあつたら	講義、ディスカッション、質疑応答	模擬授業準備、模擬授業の観察フィードバックを書く。
12	模擬授業5 第8課 すきがいっぱい	講義、ディスカッション、質疑応答	模擬授業準備、模擬授業の観察フィードバックを書く。
13	模擬授業6 第9課 げんきですか?	講義、ディスカッション、質疑応答	模擬授業準備、模擬授業の観察フィードバックを書く。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	レッスンプラン最終版作成。
テキスト	庵功雄(監修)『にほんご これだけ』(ココ出版)		

科目名	EDU310: 初等教育					担当教員	杉村 美佳	
開講期	秋	開講時限	火金3限	研究室	4220	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	小学校教育、発達教育学、初等教育史、教育課程、教育方法、指導案の作成、模擬授業							
授業の概要	前半では、児童期の発達の段階と筋道を、主に発達教育学の視点から学ぶ。後半では、教育課程論、教育方法論、初等教育の歴史と現状、課題について探求する。授業実践について理解を深めるため、実際に小学校の授業を見学し、その上で指導案の作成と模擬授業を行う。							
達成目標(授業の目的)	児童期の発達や初等教育の基礎理論および課題を理解し、授業実践に必要な知識や技術の基礎を習得する。児童の発達や興味・関心に即した指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して、実践的な指導力の基礎を身につける。							
到達目標(学修成果)	①初等教育の現状と課題を学び、教師論や教育課程論等を理解することを通して、初等教育の理論や実践に関する基礎知識を身につける。 ②『教育の段階』のブックレポート作成を通して、児童期の発達の筋道を理解し、発達段階に即した教育のあり方を考察できるようになる。 ③各自が学習者を主体とした「総合的な学習の時間」の指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に授業評価をし合うことによって、効果的に児童への指導が行える力を養う。							
評価方法	①授業時に課すリアクション・ペーパー(30%)、②『教育の段階』のブックレポート(30%)、③小学校見学のレポート(10%)、④指導案の作成・発表(30%)							
評価基準	①リアクション・ペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に論述できているか。 ②『教育の段階』のブックレポート：テキストの内容を理解し、発達の筋道に即した教育のあり方について、講義内容もふまえて考察できているか。 ③小学校見学のレポート：教師と児童の様子、授業のねらいや工夫を捉えているか。 ④指導案の作成・発表：ねらいが明確で一貫性があり、学習者の発達や興味に即した指導案であるか、指導案を効果的に実践する工夫がなされているか、を評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	小学生をめぐる今日的課題	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付資料の要約・考察
2	小学生の時代的变化	講義・ディスカッション リアクションペーパー	小学生の問題について調べる、配付資料の要約・考察
3	児童期の発達の諸側面と教育(1) —認知的発達—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	ピアジェの理論について調べる、配付資料の考察
4	児童期の発達の諸側面と教育(2) —社会的・人格的発達—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	社会性の発達について調べる、配付資料の要約・考察
5	児童期における道徳性の発達と教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	配付資料を読む 配付資料の要約・考察
6	児童期における問題行動の意味(1) —非社会的問題行動—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	問題行動について調べる DVDの内容の要約・考察
7	児童期における問題行動の意味(2) —反社会的問題行動—	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	問題行動について調べる DVDの内容の要約・考察

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	『教育の段階』のレポート発表(1)	口頭発表・討議・解説	『教育の段階』1のレポート 『教育の段階』の復習
9	『教育の段階』のレポート発表(2)	口頭発表・討議・解説	『教育の段階』2のレポート 『教育の段階』の復習
10	『教育の段階』のレポート発表(3)	口頭発表・討議・解説	『教育の段階』3のレポート 『教育の段階』の復習
11	『教育の段階』のレポート発表(4)	口頭発表・討議・解説	『教育の段階』4のレポート 『教育の段階』の復習
12	特別支援教育の現状と課題	講義・ディスカッション リアクションペーパー	特別支援教育について調べる、 配付資料の要約・考察
13	初等教育の内容と教育課程	講義・ディスカッション リアクションペーパー	コア・カリキュラムを調べる、 配付資料の要約・考察
14	「総合的な学習の時間」の原理と方法	講義・ディスカッション リアクションペーパー	総合学習について調べる 配付資料の要約・考察
15	「総合的な学習の時間」の系譜	講義・ディスカッション リアクションペーパー	デュイについて調べる、 配付資料の要約・考察
16	小学校教師とは	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教師の問題について調べる 配付資料の要約・考察
17	現代における授業改革	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	アクティブ・ラーニングを調べる、 DVDの要約・考察
18	諸外国の初等教育(1) アメリカ	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	アメリカの教育を調べる DVDの内容の要約・考察
19	諸外国の初等教育(2) ヨーロッパ	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	ヨーロッパの教育を調べる DVDの内容の要約・考察
20	小学校見学の準備	グループワーク	配付資料を読む 配付物の作成
21	小学校見学	見学	見学のポイントを作成 見学の振り返り
22	小学校見学のまとめ	グループワーク	見学のレポートを作成
23	指導案とは—指導案の作成方法—	講義、グループワーク	配付資料を読む 指導案の作成
24	指導案の作成(1)—単元・ねらいの設定—	各自指導案の作成	指導案の作成
25	指導案の作成(2)—教材・教具—	各自指導案の作成	指導案の作成
26	指導案の作成(3)—指導方法・評価—	各自指導案の作成	指導案の作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	模擬授業(1)	模擬授業、相互評価 講評	模擬授業の準備と練習
28	模擬授業(2)	模擬授業、相互評価 講評	模擬授業の準備と練習

テキスト	なし。毎回書き込み式講義ノートと新聞記事などの資料を配付する。
参考書	モリス・ドベス著、堀尾輝久他訳『教育の段階—誕生から青年期まで』(岩波書店) 近藤邦夫他編『児童期の課題と支援』(新曜社)
その他特記事項	秦野市教育委員会からゲストスピーカーを招き、授業実践に関する講義を行う。

科目名	LNG325: 第二言語習得					担当教員	T. Gould	
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4209	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4, 5	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					3-④, 4-⑤, 5-②	
キーワード	Second Language Acquisition, Linguistics, Language Learning							
授業の概要	The overall objective of this course is for students to learn the foundations of Second Language Acquisition. Students will also learn to conduct basic research using both provided data and data they collect themselves. Students will learn to create transcripts from their data and, most importantly, they will learn to analyze their data. Conducting this analysis will enable students to learn to synthesize the contents of the lectures and textbook with real world language use. Projects in this course will help students to learn to understand and improve their own second language learning process.							
達成目標(授業の目的)	In this course, students will learn and use the vocabulary necessary to understand class lectures and discuss SLA topics with other class members. Students will learn to transcribe linguistic data, beginning with a Japanese-Japanese conversation. They will then learn to analyze their own second language production by transcribing and analyzing a sample of a conversation in English with other class members. Finally, for their final project, students will learn to put their knowledge to use by transcribing and analyzing data from an English speaker learning Japanese.							
到達目標(学修成果)	By the end of this course, students should be able to transcribe and analyze second language data from both English and Japanese. Students should also be able to discuss the basic processes of second language acquisition in terms that we have studied during the semester.							
評価方法	Small Project 15%, Mid-Term Project 25%, Final Project 30%, Assessment 30%.							
評価基準	Small Project: display understanding of SLA transcription methods as applied to Japanese conversation; Mid-Term Project: successfully complete full transcription of participant oriented video of English conversation, complete analysis of transcription including reference to text issues from video; Final Project: successfully complete transcription and analysis of video of acquisition of Japanese as second language; Assessment: for each of three tests, correctly answer test questions to display knowledge of covered content.							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Introduction: How do different languages connect in our minds?	Lecture; pair-work; group-work	Select partner for project 1; KT 1-6
2	What is a bilingual? What are L2 users like? L2 users think differently; Two Ls in one mind	Lecture; pair-work; group-work	Record 5 min. J. conversation; KT 6-11
3	Is there a best age for learning a second language? The experience of immigrants	Lecture; pair-work; group-work	Prepare 3 min. sample transcript; KT 17-25
4	The idea of a 'critical period', The effect of early instruction in a second language	Lecture; pair-work; group-work	Transcript rough draft and analysis points; KT 26-33
5	How do people acquire the words of a second language? The lexical challenge; context	Lecture; pair-work; group-work	Final check project 1 and peer edit; KT 38-43
6	The importance of grammar in SLA; morphemes, word order and processing	Lecture; pair-work; group-work	Project 1 due in class; KT 44-50
7	Writing in a second language; pronunciation, writing system; letter / sound correspondence	Lecture; pair-work; group-work	Select Project 2 groups; KT 56-60

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
8	Review and Test	Short lecture; take test	Meet with Project 2 group and practice conversations
9	Return test and go over results; syllable structure; scripts	Lecture; pair-work; group-work	Meet w / P2 group-practice conversations; KT 61-66
10	Reading and writing processes; spelling rules; punctuation	Short lecture; take test	Record 10 min E. conversation; KT 66-70
11	How do attitude and motivation help in learning a second language? liking and wanting	Lecture; pair-work; group-work	Distribute data file to group members; KT 74-77
12	Motivation; present and future directions; Gardner's def. of L2 motivation	Lecture; pair-work; group-work	Prepare sample 1-minute transcription; KT 78-84
13	How useful is L2A research for language teaching?	Lecture; pair-work; group-work	Work on transcribing English data; KT 85-87; 90-91
14	Teaching and learning; inductive and deductive language teaching; classical teaching	Lecture; pair-work; group-work	Continue transcribing, identify analysis points; KT 92-94
15	Review and Test	Short lecture; take test	mid-term project due in class
16	Return test and go over results; communicative syllabi; Grammar translation method	Lecture; pair-work; group-work	Organize groups for final project; KT 95-103
17	The audiolingual method; examples of structure drills; examples of communicative exercises	Lecture; pair-work; group-work	Distribute data files; KT 110-114
18	Weinreich: kinds of bilinguals; more views on age; classic research on the age factor	Lecture; pair-work; group-work	Prepare sample 1-minute transcription; KT 114-119
19	Two views of age and classroom language learning; what's a word?	Lecture; pair-work; group-work	Work on transcribing J. data KT 120-122
20	American English children's early words; translation equivalents; mnemonic connections	Short lecture; take test	Continue transcribing, identify analysis points; KT 126-128
21	Rote-learning; some basic grammar differences between languages (pro-drop and non-pro-drop)	Lecture; pair-work; group-work	Continue work on transcribing J. data; KT 129-134
22	Shapes vs substance; J words taken from E with added vowels	Lecture; pair-work; group-work	Continue transcribing, final analysis points; KT 134-139
23	Review and Test	Short lecture; take test	Study / Review for test; begin English gloss of transcription
24	Return test and go over results; multiple perspectives in SLA	Lecture; pair-work; group-work	Complete English gloss
25	Concluding lecture; Topic review and small group discussions (topic assigned by instructor)	Lecture; pair-work; group-work	Review class notes and test results; finish transcription
26	Peer editing and consultation about Project 3 with instructor, transcription and analysis	pair-work; group-work	Prepare rough outline of analysis for discussion
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Discussions about Project 3 in pairs and small groups	pair-work; group-work	Prepare final draft w / analysis
28	Conclusion, multiple perspectives in SLA	pair-work; group-work	Transcription / analysis project (Japanese learner) due in class
テキスト	Vivian Cook and David Singleton. <i>Key Topics in Second Language Acquisition</i> (Multilingual Matters).		

科目名	EDU300: 児童英語教育演習 A				担当教員	狩野 晶子		
開講期	春	開講時限	月1・2限	研究室	4203	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要					学修成果獲得の観点	
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-⑤, 5-②	
キーワード	児童英語教育, 言語習得, 模擬授業, サービスラーニング活動, アクティブラーニング							
授業の概要	児童英語教育・言語習得の基本事項をふまえて、実践へと結びつける科目である。児童英語教育に関する背景知識や第二言語習得理論の知識をもとに、小学校の現場での使用を想定した指導案を作成し、模擬授業を行う。あわせてサービスラーニング枠で行うイングリッシュフレンド活動に参加し小学校高学年への授業実践と省察を通して理論と実践を体得する。							
達成目標 (授業の目的)	児童英語の指導に必要な知識を身につけ、実践に結びつけることがこの授業の目的である。サービスラーニング活動での実践の機会を活用して、小学校高学年での英語指導の目的と意義に沿い、児童の認知発達や特性を考慮した指導案と教材、教具の作成をする。それを用いてサービスラーニング活動に向けた模擬指導実践を行う。さらに実際に小学校で実践したことをもとに、自らの指導を検証、評価し改善する経験を積む。							
到達目標 (学修成果)	児童英語教育の基礎知識を活かし、小学校高学年での英語指導の目的と意義に沿った指導案を作成し、グループでの小学校での英語活動指導のための模擬指導実践を行うことができる。グループでの指導案、教材および教具の作成を行い、授業準備のプロセスを経験し、小学校高学年での実践を踏まえた相互評価と講評による省察を通して、指導力の育成と自らの指導を検証、評価し改善する課題発見力、課題解決力、協働力が身につく。							
評価方法	①授業でのグループワーク参加姿勢（30%）、②指導案・教材作成（20%）、③模擬授業（20%）、④期末課題（30%）の比率に基づいて総合的に評価する。							
評価基準	①授業内のすべての活動およびグループワーク等への積極的参加、協力しあい主体的に関わる姿勢とそれを反映したリフレクションを評価する。②児童特性を考慮した授業案作成への取り組みを評価する。③適切な teacher talk の使用、アクティビティ構成、準備と練習の成果を評価する。④Moodleでの省察の蓄積をもとに、改良改善への取り組みの過程を評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	児童英語教育・小学校外国語（英語）教育とは：これまでの学習内容の確認	講義 グループワーク	既習科目の内容復習
2	児童英語教育の背景となる言語習得理論・発達理論	講義 グループワーク	グループワークをもとにリフレクション作成
3	言語習得理論・発達理論と児童英語教育の指導実践を反映した授業案とは	講義、指導実践 グループワーク	グループワークをもとにリフレクション作成
4	テキスト概観：学習指導要領に照らして小学校外国語（英語）教育を考える	講義 グループワーク	授業内容をもとに指導案を作成
5	Communicative Language Teaching の観点からイングリッシュフレンド指導案を考える	講義、指導実践 グループワーク	グループワークをもとにリフレクション作成
6	小学校高学年への指導案をもとに模擬授業発表①	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案を改訂・発表準備
7	小学校高学年における学習者の特徴を踏まえた指導案・教材教具の在り方	学生発表 グループワーク	省察・相互フィードバック発表準備
8	小学校高学年への指導案をもとに模擬授業発表②	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案を改善・発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案の研究(1)	学生発表、指導実践 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
10	小学校高学年モデル指導案の実践練習(1) Classroom Englishの効果的な使用	講義、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
11	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案の研究(2)	学生発表、指導実践 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
12	小学校高学年モデル指導案の実践練習(2) 教材・教具の効果的な使用	講義、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
13	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案の研究(3)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
14	小学校高学年モデル指導案②の研究 言語材料の選び方と展開の技法	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
15	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案の研究(4)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
16	小学校高学年モデル指導案の実践練習(3)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
17	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案の研究(5)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
18	小学校高学年モデル指導案の実践練習(4)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
19	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案の研究(6)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
20	小学校高学年モデル指導案の実践練習(5)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
21	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案の研究(7)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
22	小学校高学年モデル指導案の実践練習(6)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
23	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案の研究(8)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
24	小学校高学年モデル指導案の実践練習(7)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
25	イングリッシュフレンド・小学校高学年モデル指導案の研究(9)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
26	小学校高学年モデル指導案の実践練習(8) 期末課題について説明	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	期末課題の相互フィードバック	指導実践、学生発表 グループワーク	EF活動のMOODLEでの省察 期末課題作成
28	全体での活動の振り返り	指導実践、学生発表 グループワーク	EF活動のMOODLEでの省察 期末課題作成

テキスト	『CROWN Jr. 5年生』、『CROWN Jr. 6年生』(三省堂) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 平成29年告示』		
履修条件、 前提科目	この科目を履修する学生は、イングリッシュフレンド・サービスマスター活動への参加を原則とするため、木曜日の午前中は他の授業を履修することはできない。 この科目の履修にあたり、「児童英語教育概説」「児童英語指導者養成講座」「第二言語習得」のいずれかを履修済みであることを条件とする。		
その他 特記事項	本講は学外での実践的教育を含む科目である。		

科目名	EDU301: 児童英語教育演習 B				担当教員	狩野 晶子	
開講期	秋	開講時限	月1・2限	研究室	4203	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要				学修成果獲得の観点	
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-②	
キーワード	児童英語教育, 言語習得, 模擬授業, サービスラーニング活動, アクティブラーニング						
授業の概要	児童英語教育・言語習得の基本事項をふまえて、実践へと結びつける科目である。児童英語教育に関する背景知識や第二言語習得理論の知識をもとに、小学校の現場での使用を想定した指導案を作成し、模擬授業を行う。あわせてサービスラーニング枠で行うイングリッシュフレンド活動に参加し小学校中学年への授業実践と省察を通して理論と実践を体得する。						
達成目標 (授業の目的)	児童英語の指導に必要な知識を身につけ、実践に結びつけることがこの授業の目的である。サービスラーニング活動での実践の機会を活用して、小学校中学年での英語活動の目的と意義に沿い、児童の認知発達や特性を考慮した指導案と教材、教具の作成をする。それを用いてサービスラーニング活動に向けた模擬指導実践を行う。さらに実際に小学校で実践したことをもとに、自らの指導を検証、評価し改善する経験を積む。						
到達目標 (学修成果)	児童英語教育の基礎知識を活かし、小学校中学年での英語活動の目的と意義に沿った指導案を作成し、グループでの小学校での英語活動指導のための模擬指導実践を行うことができる。グループでの指導案、教材および教具の作成を行い、授業準備のプロセスを経験し、小学校中学年での実践を踏まえた相互評価と講評による省察を通して、指導力の育成と自らの指導を検証、評価し改善する課題発見力、課題解決力、協働力が身につく。						
評価方法	①授業でのグループワーク参加姿勢（30%）、②指導案・教材作成（20%）、③模擬授業（20%）、④期末課題（30%）の比率に基づいて総合的に評価する。						
評価基準	①授業内のすべての活動およびグループワーク等への積極的参加、協力しあい主体的に関わる姿勢とそれを反映したリフレクションを評価する。②児童特性を考慮した授業案作成への取り組みを評価する。③適切な teacher talk の使用、アクティビティ構成、準備と練習の成果を評価する。④Moodleでの省察の蓄積をもとに、改良改善への取り組みの過程を評価する。						
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	児童英語教育・小学校外国語（英語）教育とは：これまでの学習内容の確認	講義 グループワーク	既習科目の内容復習
2	児童英語教育の背景となる言語習得理論・発達理論	講義 グループワーク	グループワークをもとにリフレクション作成
3	言語習得理論・発達理論と児童英語教育の指導実践を反映した授業案とは	講義、指導実践 グループワーク	グループワークをもとにリフレクション作成
4	テキスト概観：学習指導要領に照らして小学校外国語（英語）教育を考える	講義 グループワーク	授業内容をもとに指導案を作成
5	Communicative Language Teachingの観点からイングリッシュフレンド指導案を考える	講義、指導実践 グループワーク	グループワークをもとにリフレクション作成
6	小学校中学年への指導案をもとに模擬授業発表①	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案を改訂・発表準備
7	小学校中学年における学習者の特徴を踏まえた指導案・教材教具の在り方	学生発表 グループワーク	省察・相互フィードバック発表準備
8	小学校中学年への指導案をもとに模擬授業発表②	講義、学生発表 グループワーク	授業内容をもとに指導案を改善・発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案の研究(1)	学生発表、指導実践 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
10	小学校中学年モデル指導案の実践練習(1) Classroom Englishの効果的な使用	講義、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
11	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案の研究(2)	学生発表、指導実践 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
12	小学校中学年モデル指導案の実践練習(2) 教材・教具の効果的な使用	講義、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
13	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案の研究(3)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
14	小学校中学年モデル指導案②の研究 言語材料の選び方と展開の技法	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
15	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案の研究(4)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
16	小学校中学年モデル指導案の実践練習(3)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
17	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案の研究(5)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
18	小学校中学年モデル指導案の実践練習(4)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
19	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案の研究(6)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
20	小学校中学年モデル指導案の実践練習(5)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
21	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案の研究(7)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
22	小学校中学年モデル指導案の実践練習(6)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
23	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案の研究(8)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
24	小学校中学年モデル指導案の実践練習(7)	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
25	イングリッシュフレンド・小学校中学年モデル指導案の研究(9)	指導実践、学生発表 グループワーク	省察をもとに指導案を改訂 EF活動のMOODLEでの省察
26	小学校中学年モデル指導案の実践練習(8) 期末課題について説明	指導実践、学生発表 グループワーク	発表準備と実践練習 指導案・教材・教具を改善
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	期末課題の相互フィードバック	指導実践、学生発表 グループワーク	EF活動のMOODLEでの省察 期末課題作成
28	全体での活動の振り返り	指導実践、学生発表 グループワーク	EF活動のMOODLEでの省察 期末課題作成

テキスト	『CROWN Jr. 5年生』、『CROWN Jr. 6年生』(三省堂) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 平成29年告示』		
履修条件、 前提科目	この科目を履修する学生は、イングリッシュフレンド・サービスマーケティング活動への参加を原則とするため、木曜日の午前中は他の授業を履修することはできない。 この科目の履修にあたり、「児童英語教育概説」「児童英語指導者養成講座」「第二言語習得」のいずれかを履修済みであることを条件とする。		
その他 特記事項	本講は学外での実践的教育を含む科目である。		

科目名	EDU323: 児童英語指導者養成講座				担当教員	杉村 美佳	
開講期	秋	開講時限	火金4限	研究室	4220	オフィスワー P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要				学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。				4-⑤, 5-②	
キーワード	児童英語教育、小学校英語活動、言語習得、英語教授法、レッスンプラン						
授業の概要	小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）認定による「小学校英語指導者資格」の取得を目指し、児童英語指導者として求められる基礎的な知識と実践経験を得る。子どもの言語習得理論、児童心理学、認知発達理論など、指導者として必要な理論の基礎を学び、児童英語指導者に求められる英語力を身につけるためのトレーニングを行う。模擬授業や実践を通して授業スキルやレッスンプランの書き方を体得する。						
達成目標（授業の目的）	児童英語教師として小学校での英語指導や指導補助を行うことを目指し、児童英語に関する基礎知識、教授技術の基本を理解し、英語のみでの指導が行える指導技術と英語力を習得することを目標とする。						
到達目標（学修成果）	①児童英語指導者に必要な英語力の体得に加え、言語習得理論や児童心理、認知発達理論等、児童英語教育の理論の基礎を習得する。②レッスンプランを作成し、アクティビティを実践することを通して、効果的に児童への指導が行えるようになる。③小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）の認定による「小学校英語指導者準認定資格」の取得を目指す。						
評価方法	①課題・ノート提出（20%）、②英文法小テスト（30%）、③アクティビティ発表（20%）、④レッスンプラン作成（30%）						
評価基準	①課題・ノート提出：通信講座の振り返りチェックを行っているか。 ②英文法小テスト：通信講座『英語力トレーニング』確認テストのスコア ③アクティビティ発表：レッスンプランに即して講義で学んだ教授技術を実践に生かすことができたか。 ④レッスンプラン作成：作成手順に即し、子どもの発達段階に合った適切なプランになっているか。						
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	児童英語教師とは	講義、グループワーク、DVD視聴	『基礎知識1』Week1,2の予習、振り返りチェック
2	子どもと英語—児童英語教育の意義・目的	講義、グループワーク、DVD視聴	『基礎知識1』Week3の予習 振り返りチェック
3	児童心理学（1）—幼児期の心理—	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week4の予習
4	児童心理学（2）—児童期の心理—	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week4の予習 振り返りチェック
5	言語習得論	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week5の予習 振り返りチェック
6	認知発達理論	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week6の予習 振り返りチェック
7	バイリンガル教育	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week7の予習 振り返りチェック
8	国際理解教育	講義、グループワーク	『基礎知識1』Week8の予習 振り返りチェック

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	小学校英語活動の位置づけ(1) — 小学校「外国語活動・外国語」の目標と内容 —	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week1の予習
10	小学校英語活動の位置づけ(2) — 小学校「外国語活動・外国語」の留意点 —	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week1の予習 振り返りチェック
11	小学校英語活動の意義と課題	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week2の予習 振り返りチェック
12	小・中・高の連携	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week3の予習 振り返りチェック
13	求められる英語活動指導者とは	講義、グループワーク	『基礎知識2』Week4の予習 振り返りチェック
14	クラスルーム・イングリッシュ	講義、グループワーク	『英語力トレーニング2』 Week13～15の予習
15	語彙力のトレーニング	講義、グループワーク	『英語力トレーニング2』 Week16～18の予習
16	パラフレーズ力のトレーニング	講義、グループワーク	『英語力トレーニング2』 Week19～21の予習
17	状況設定力のトレーニング	講義、グループワーク	『英語力トレーニング2』 Week22～24の予習
18	カリキュラムとレッスンプラン	講義、グループワーク	『基礎知識3』Week6の予習
19	教材・教具	講義、グループワーク	『基礎知識3』Week7の予習 振り返りチェック
20	レッスンを構成するアクティビティ(1) — レッスンに適したアクティビティ —	講義、グループワーク	『基礎知識3』Week8の予習
21	レッスンを構成するアクティビティ(2) — 代表的なアクティビティ例 —	講義、グループワーク	『基礎知識3』Week8の予習 振り返りチェック
22	レッスンプランの書き方	レッスンプランの作成	『レッスンプラン作成ガイド』 Week9の予習
23	レッスンプランの作成(1)	レッスンプランの作成	レッスンプランの作成
24	レッスンプランの作成(2)	レッスンプランの作成	レッスンプランの作成
25	レッスンプランの作成(3)	レッスンプランの作成	レッスンプランの作成
26	アクティビティ発表(1)	学生発表、相互評価、 講評	発表の準備と練習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	アクティビティ発表(2)	学生発表、相互評価、 講評	発表の準備と練習
28	アクティビティ発表(3)	学生発表、相互評価、 講評	発表の準備と練習

テキスト	「アルク児童英語教師養成コース」(アルク)で使用するテキスト(『基礎知識編』『英語力トレーニング編』『レッスンプラン編』)およびその他のプリント配付物。
参考書	文部科学省『We can!』(東京書籍)
履修条件、 前提科目	本講は学外での実践的教育を含む科目である。アルクの通信講座「アルク児童英語教師養成コース」をベースとする授業のため、別途費用がかかる。
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> この授業の終了時には少なくとも TOEIC 500 点以上となるよう努力すること。 この授業を受講する者は積極的にイングリッシュ・フレンド等の活動に参加すること。

科目名	SLE201: サービスラーニング入門講座				担当教員	宮崎 幸江		
開講期	春/秋	開講時限	(春)木2限 (秋)火4限	研究室	4217	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	5	地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					5-①, 5-②	
キーワード	サービスラーニング、キリスト教ヒューマニズム、秦野市、多文化共生							
授業の概要	本学のサービスラーニング活動に参加を希望している学生に、サービスラーニングとは何か、秦野市の地域的な課題や公教育で求められるボランティアの役割、子どもたちの発達等、毎回異なる講師により多様な視点からサービスラーニングについて講義を聴く。学生は講義を聴いてグループでディスカッションをしたり、グループごとに発表し参加型の授業を行う。							
達成目標(授業の目的)	本学のサービスラーニング活動に参加することを前提に、活動する地域社会に対する基礎知識や教育現場でのニーズについて学ぶ。また、本学教職員のボランティア体験を聴くことにより、国内だけでなく海外まで視野を広げ、多文化共生的な視野を養う。							
到達目標(学修成果)	サービスラーニングの内容や特徴を理解し、具体的にどのサービスラーニングに参加していきたいかイメージを持てるようになる。その活動に参加することによりどのような地域貢献をしていきたいか、また自分自身が何をどう学ぶかを主体的に考えられるようになる。多様な背景の講師の講義から、「他者のために他者ととともに」とはどういうことかを自分で考え、意見を述べられるようになる。							
評価方法	① 積極的参加：25% ② リアクションペーパー：25% ③ 最終レポート：50%							
評価基準	① 積極的参加：授業中のディスカッションやサービスラーニングに積極的に関わったかどうかを評価する。 ② リアクションペーパー：毎回の講義を振り返りシャトルカードに書いて提出する。 ③ 最終レポート：「サービスラーニング入門講座から学んだこと」というタイトルのレポートを最終日に提出する。 ※成績評価はパス/フェイルのみ							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	サービスラーニングとは何か サービスラーニングの歴史、種類、学び	講義、ディスカッション、質疑応答	講義用ノートの準備。
2	キリスト教とボランティア	講義、ディスカッション、質疑応答	ハンドアウトを読んで関連する事柄を調べる。
3	秦野の地域的特徴と課題(はだの学)	講義、ディスカッション、質疑応答	秦野市について興味のある事柄を調べる。
4	特別な個性を持つ子どもたち	講義、ディスカッション、質疑応答	ハンドアウトを読んで復習する。
5	異文化理解について	講義、ディスカッション、質疑応答	関連する新聞記事などを自分で調べる。
6	秦野市の学校におけるボランティアの役割	講義、ディスカッション、質疑応答	レポート準備。
7	みんなで考えるサービスラーニング	講義、ディスカッション、質疑応答	レポート準備。

その他 特記事項	<p>サービラーニングへの参加を希望する学生は本科目を取ることを推奨する。活動をしなが ら本講座を履修することも可能である。 ※授業実施日は以下のとおりである。</p> <p>【春学期】1回目(4/16)、2回目(4/23)、3回目(4/30)、4回目(5/7)、5回目(5/14)、6回目 (5/21)、7回目(5/28)</p> <p>【秋学期】1回目(9/29)、2回目(10/6)、3回目(10/13)、4回目(10/20)、5回目(10/27)、6 回目(11/10)、7回目(11/17)</p>
-------------	--

科目名	SLE301: サービスラーニング(小中学校日本語支援A)				担当教員	河北 祐子		
開講期	春	開講時限	月木2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	3	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	5	地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					5-①	
キーワード	年少者日本語教育、学校とボランティア、多文化共生、自己肯定感							
授業の概要	この授業では、サービスラーニング(カレッジフレンド)に参加し、学期中秦野市の小中学校に在籍する外国人児童生徒の日本語および教科学習の支援を行う。サービスラーニングでは、決められた学校で木曜日2限(学期中12回)に活動を行い、月曜日には学内で年少者への日本語支援の方法や多言語環境の子どもの発達について学ぶ。							
達成目標(授業の目的)	グローバル化が進む現代社会における外国人児童生徒を取り巻く環境や教育課題を理解できるようになる。特に日本の学校で学ぶ外国人児童生徒の言語の発達について、理論を理解し、当事者の立場からも考察できるようになる。地域の課題を理解し、多文化共生に向けて自ら行動できるようになる。							
到達目標(学修成果)	① 支援対象者の言語的ニーズをつかみ相手に合わせた指導の工夫ができるようになる。 ② 地域の課題に対する理解が進み、多文化共生的な視点から意見を持てるようになる。 ③ サービスラーニングを通して、社会人として成長する。							
評価方法	① 授業への積極参加 35% ② カレッジフレンドへの参加 35% ③ プレゼンテーションとレポート 30%							
評価基準	① 授業への積極参加：授業でのディスカッションに積極的に参加し意見を述べているか。 ② カレッジフレンドへの参加、ふり返り：活動に参加しふり返りを記述しているか。 ③ プレゼンテーション、レポート：1学期間の活動をまとめ、テーマに従って活動内容を分析しているか。 ※成績評価はパス/フェイルのみ							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	外国につながる児童生徒とその保護者、その多様性を豊かさに変える。	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書8~24頁を読んでノートにまとめる。
2	秦野市における多文化化の現状	講義、ディスカッション、質疑応答	ハンドアウトを読んでノートにまとめる。
3	グローバル化と日本の学校文化	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書26~39頁を読んでノートにまとめる。
4	多様な先生、多様な児童支援の方法	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書42~52頁を読んでノートにまとめる。
5	低学年の児童の支援方法	講義、ディスカッション、質疑応答	支援方法をノートにまとめる。
6	来日まもない児童の支援方法	講義、ディスカッション、質疑応答	支援方法をノートにまとめる。
7	教科学習の支援方法	講義、ディスカッション、質疑応答	支援方法をノートにまとめる。
8	実習①：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	実習のふり返りと報告 支援効果を上げるリソースルームの利用	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、自身の支援を再度ふり返る。
10	実習②：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
11	実習のふり返りと報告 外国人保護者が捉える日本の学校文化	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、自身の支援を再度ふり返る。
12	実習③：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
13	実習のふり返りと報告 教科学習の難しさ①：小学校	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、自身の支援を再度ふり返る。
14	実習④：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
15	実習のふり返りと報告 言語とアイデンティティ	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、自身の支援を再度ふり返る。
16	実習⑤：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
17	実習のふり返りと報告 教科学習の難しさ②：中学校	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、自身の支援を再度ふり返る。
18	実習⑥：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
19	実習のふり返りと報告 支援方法の紹介	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、自身の支援を再度ふり返る。
20	実習⑦：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
21	実習のふり返りと報告 エンパワメント	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、自身の支援を再度ふり返る。
22	実習⑧：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
23	実習のふり返りと報告 子どもと社会参加	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、自身の支援を再度ふり返る。
24	実習⑨：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。
25	実習のふり返りと報告 学校による違い	講義、ディスカッション、質疑応答	報告の共有を通して、自身の支援を再度ふり返る。
26	実習⑩：小中学校での外国籍児童生徒への日本語および教科学習支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援のふり返りを書く。 プレゼンテーション準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	全体のふり返り、プレゼンテーション	ディスカッション、質疑応答	プレゼンテーション準備
28	プレゼンテーション、総括	ディスカッション、質疑応答	レポートを書く。

テキスト	松永典子『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック』(金木犀舎)
その他特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある日は直接派遣先へ行くことになるため、月木1限の科目を履修することはできない。「サービスマーケティング入門講座」を履修済みであることが望ましい。同じ学期に履修、または次の学期に履修することも可能である。初回授業において履修者を選考するので必ず出席すること。

科目名	SLE302: サービスラーニング(小中学校日本語支援B)				担当教員	宮崎 幸江		
開講期	秋	開講時限	月木2限	研究室	4217	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	3	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	5	地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					5-①	
キーワード	年少者日本語教育、バイリンガリズム、多文化共生、アクティブラーニング							
授業の概要	この授業では、サービスラーニング(カレッジフレンド)に参加し、学期中秦野市の小中学校に在籍する外国人児童生徒の日本語及び教科学習の支援を行う。サービスラーニングでは、決められた学校で木曜日の2限(学期中12回)に活動を行い、月曜日には学内で年少者への日本語支援の方法やバイリンガル環境の子どもの発達について学ぶ。							
達成目標(授業の目的)	グローバル化が進む現代社会における外国人児童生徒を取り巻く環境や教育課題を理解できるようになる。特に日本の学校で学ぶ外国人児童生徒の言語の発達について、理論を理解し、当事者の立場からも考察できるようになる。地域の課題を理解し、多文化共生に向けて自ら行動できるようになる。							
到達目標(学修成果)	① 支援対象の言語的ニーズをつかみ相手に合わせた指導の工夫ができるようになる。 ② 地域の課題に対する理解が進み、多文化共生的な視点から意見を持てるようになる。 ③ サービスラーニングを通して、社会人として成長する。							
評価方法	① 授業への積極参加(35%) ② カレッジフレンドへの参加(35%) ③ プレゼンテーションとレポート(30%)							
評価基準	① 授業への積極参加: 授業でのディスカッションに積極的に参加し意見を述べているか。 ② カレッジフレンドへの参加、振り返り: 活動に参加し振り返りを記述しているか。 ③ プレゼンテーション、レポート: 一学期間の活動をまとめ、テーマに従って活動内容を分析しているか。 ※成績評価はパス/フェイルのみ							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	外国につながる児童生徒とその保護者その多様性を豊かさに変える	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書8~24頁を読んでノートにまとめる。
2	秦野市における多文化化の現状	講義、ディスカッション、質疑応答	ハンドアウトを読んでノートにまとめる。
3	バイリンガルの言語発達と教育課題	講義、ディスカッション、質疑応答	ハンドアウトを読んでノートにまとめる。
4	グローバル化と日本の学校文化	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書26~39頁を読む。
5	多様な先生、多様な児童支援の方法	講義、ディスカッション、質疑応答	教科書42~52頁を読む。
6	実習①: 小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
7	実習の振り返りと報告学校に入って気づいたこと	講義、ディスカッション、質疑応答	他の人の振り返りから、自分の支援をもう一度振り返る。
8	実習②: 小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	実習の振り返りと報告 教科学習の難しさ	講義、ディスカッション、質疑応答	他の人の振り返りから、自分の支援をもう一度振り返る。
10	実習③：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援 小中学校実習	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
11	実習④：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
12	実習の振り返りと報告	講義、ディスカッション、質疑応答	他の人の振り返りから、自分の支援をもう一度振り返る。
13	実習⑤：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
14	実習の振り返りと報告 外国人保護者が捉える日本の学校文化	講義、ディスカッション、質疑応答	他の人の振り返りから、自分の支援をもう一度振り返る。
15	実習⑥：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
16	実習の振り返りと報告 言語とアイデンティティ	講義、ディスカッション、質疑応答	他の人の振り返りから、自分の支援をもう一度振り返る。
17	実習⑦：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
18	実習の振り返りと報告 支援方法の紹介	講義、ディスカッション、質疑応答	他の人の振り返りから、自分の支援をもう一度振り返る。
19	実習⑧：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
20	実習の振り返りと報告 クラス運営について	講義、ディスカッション、質疑応答	他の人の振り返りから、自分の支援をもう一度振り返る。
21	実習⑨：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
22	実習の振り返りと報告 子どもたちのエンパワメント	講義、ディスカッション、質疑応答	他の人の振り返りから、自分の支援をもう一度振り返る。
23	実習⑩：小中学校での外国籍児童生徒への日本語及び教科学習の支援	入り込み、または個別支援の実習巡回指導	支援の振り返りを書く。
24	実習の振り返りと報告 学校による違い	講義、ディスカッション、質疑応答	他の人の振り返りから、自分の支援をもう一度振り返る。
25	プレゼンテーション	ディスカッション、質疑応答	プレゼンテーション準備
26	プレゼンテーション	ディスカッション、質疑応答	プレゼンテーション準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	全体の振り返り、プレゼンテーション	ディスカッション、質疑応答	プレゼンテーション準備
28	プレゼンテーション、総括	ディスカッション、質疑応答	レポートを書く。

テキスト	松永典子編著『学校とこども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック』(金木犀舎)		
その他特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある日は直接派遣先へ行くことになるため、月木1限の科目を履修することはできない。「サービスマーケティング入門講座」を履修済であることが望ましい。同じ学期に履修または次の学期に履修することも可能である。初回授業において履修者を選考するので必ず出席すること。		

科目名	SLE303: サービスラーニング(地域日本語支援 A)				担当教員	宮崎 幸江		
開講期	春	開講時限	火金5限	研究室	4217	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	3	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	5	地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					5-①	
キーワード	多文化共生、「やさしい日本語」、社会参加、居場所、参加型学習							
授業の概要	日本に住む外国籍の人々に対する日本語や子どもの学習支援を行うために必要な知識やスキルを講義で学び、実習では実際に担当する学習者に学期を通して支援を行う。毎回、授業の中で実習での課題を振り返り、改善する方法を考え実践することを繰り返す。学期末には学生は本授業を通して学んだことを応用したコミュニティーフレンド参加者のためのイベントを企画実践する。							
達成目標(授業の目的)	グローバル化により多文化化が進む日本社会において、「多文化共生社会」実現のために、地域社会における外国籍市民の課題について理解し、課題解決に向けた行動を起こせる人材を育成することが、本講の目的である。							
到達目標(学修成果)	日本語非母語話者の日本語のニーズを理解し、相手に合わせてコミュニケーションをはかることができる。支援活動の計画・実践・振り返り・改善という一連の行動を粘り強く行うことができる。外国籍市民を含む日本の地域社会に目を向け、地域の課題を当事者として考えることができる。							
評価方法	① 授業時の積極的参加 30% ② 実習(火曜日のコミュニティーフレンド)への参加 30% ③ プレゼンテーション(イベント企画・運営) 40%							
評価基準	①授業時のディスカッションへの参加、課題提出期限を守っているか。 ②ボランティアに参加し、積極的に行動しているか。 ③イベントの企画運営に積極的に参加し、目的を実現した活動だったか。 ※成績評価はパス/フェイルのみ							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	グローバル化と地域社会 多文化共生施策	講義、質疑応答 グループワーク	外国人に関するニュースに関心を持つ。街観察をする。
2	日本で育つ外国人家庭の子ども 言語と教育の問題	講義、質疑応答 グループワーク	pp.1-24を読んでおく。 身の回りの日本語を観察。
3	居場所としての地域日本語教室 支援方法、実習に向けての注意	講義、質疑応答 グループワーク	pp.25-31を読んでおく。
4	人間関係を作る方法	講義、質疑応答 グループワーク	pp.42-52を読んでおく。
5	子どもの支援方法	講義、質疑応答 グループワーク	学校教材を調べておく。
6	模擬レッスン 相手のニーズを知る	講義、質疑応答 グループワーク	模擬レッスンの計画と観察記録を書く。
7	大人の支援方法	講義、質疑応答 グループワーク	学校教材を調べておく。
8	模擬レッスン 日本語支援と関係づくり	講義、質疑応答 グループワーク	模擬レッスンの計画と観察記録を書く。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	実習の計画、準備	講義、質疑応答 グループワーク	学校教材を調べておく。
10	実習① 「居場所」としての日本語教室観察	講義、コミュニティー フレンド参加	学校教材を調べておく。 活動記録を書く。
11	実習報告と振り返り 次回の計画、準備	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入する。
12	実習② 他のボランティアとの協力	講義、コミュニティー フレンド参加	学校教材を調べておく。 活動記録を書く。
13	実習報告と振り返り 次回の計画、準備	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入する。
14	実習③ 地域の課題を考える	講義、コミュニティー フレンド参加	保護者の話を聞く。 活動記録を書く。
15	実習報告と振り返り 次回の計画、準備	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入する。
16	実習④ 支援の効果は	講義、コミュニティー フレンド参加	活動記録を書く。
17	実習報告と振り返り 次回の計画、準備	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入する。
18	実習⑤ イベントについて希望を聞く	講義、コミュニティー フレンド参加	活動記録を書く。
19	実習報告と振り返り 次回の計画、準備	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入する。
20	実習⑥ 学校生活/日常生活について聞く	講義、コミュニティー フレンド参加	活動記録を書く。
21	実習報告と振り返り 次回の計画、準備	講義、質疑応答 グループワーク	改善点を考え、記録に記入する。
22	実習⑦ 国での経験について聞く	講義、コミュニティー フレンド参加	活動記録を書く。
23	実習報告と振り返り 次回の計画、準備	講義、質疑応答 グループワーク	これまでの活動記録を省察し、課題を見つけておく。
24	実習⑧ 学習者の国について学ぶ	講義、コミュニティー フレンド参加	自分の活動を省察する。 活動記録を書く。
25	実習⑨ 「イベント企画」へ向けて	講義、コミュニティー フレンド参加	自分の活動を省察し、改善を考える。
26	「イベント企画」 役決めとリハーサル	グループワーク 質疑応答	イベントの準備。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	実習⑩ 「夏休み宿題会とイベント」実施	イベント運営、コミュニティーフレンド参加	記録をつけ、省察の材料とする。
28	授業振り返り 講評	グループワーク 質疑応答	実践過程を振り返り、学びを深める。

テキスト	松永典子『多文化・多様性理解ハンドブック』(金木犀舎)
参考書	庵功雄(監修)『にほんご これだけ』(ココ出版)
その他特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある火曜日は4限終了後派遣先へ移動して実習を行う。「サービスマナー入門講座」を履修済みであることが望ましいが、同じ学期に履修、または次の学期に履修することも可能である。初回授業において履修者を選考するので必ず出席すること。

科目名	SLE304: サービスラーニング(地域日本語支援B)				担当教員	河北 祐子		
開講期	秋	開講時限	火金5限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	3	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	5	地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					5-①	
キーワード	多文化共生、「やさしい日本語」、地域日本語教室、居場所、自己肯定感							
授業の概要	サービスラーニング(コミュニティーフレンド)活動参加を通じて、学校外での外国人家庭の子どもたちや保護者に対する日本語および教科学習支援を行う。火曜日午後6時から7時半まで「はだのこども館」におけるコミュニティーフレンド活動に参加する。金曜日5限には学内において日本で育つ外国つながりの子どもたちおよびその保護者を巡る諸問題や現状について学ぶとともに活動方法の向上について考える。							
達成目標(授業の目的)	地域に増える外国つながりの子どもをとりまく状況について理解し、各々にあった支援活動を考えられるようになる。実際の活動を通じた経験をふり返り、課題を発見し、必要な解決行動を模索、実践するという省察行動がとれるようになる。1対1の活動に留まらない周りの人々との協働を心がける広い視野を持つことを目指す。							
到達目標(学修成果)	① 支援対象者の言語的ニーズをつかむことができる。 ② 準備外の事態が起きたときの対処ができる。 ③ 目前の事象に捉われず、将来の社会参加を考えた支援活動ができるようになる。 ④ 多文化共生社会づくりを担う人材として成長する。							
評価方法	① 授業への積極的、協力的参加 30% ② コミュニティーフレンドへの継続的参加 30% ③ 学期末イベント企画実施 40%							
評価基準	① 授業への積極的、協力的参加：授業でのディスカッションに積極的に参加し、意見を述べているか。また活発なディスカッションをするために協力しているか。 ② コミュニティーフレンドへの継続的参加：活動に継続的に参加し、自らの活動を省察しているか。 ③ イベント企画実施：1学期間の活動のまとめとして、子どもの学びと成長を目指したイベントを企画実施したかどうか。 ※成績評価はパス/フェイルのみ							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	グローバリゼーションと地域社会 多文化共生施策	講義、質疑応答 グループワーク	外国人に関するニュースに関心を持つ。街観察をする。
2	日本で育つ外国人家庭の子ども 言語と教育の問題	講義、質疑応答 グループワーク	pp.8~24を読んでおく。 身の回りの日本語を観察
3	グローバル化と日本の学校文化 支援方法と各種教材	講義、質疑応答 グループワーク	pp.26~39を読んでおく。 リソースルームを見ておく。
4	居場所としての地域日本語教室 ボランティアと省察	講義、質疑応答 グループワーク	実習場所を確認しておく。
5	多様な子どもたちと支援方法	講義、質疑応答 グループワーク	場を観察する。
6	多様な保護者 支援の方法(本)	講義、質疑応答 グループワーク	pp.42~52を読んでおく。 省察行動をとる。
7	実習①：担当する子どもと親しくなる。言語力、学力等について観察する。	コミュニティーフレンド参加	活動記録を書く。活動への準備をする。
8	実習②：他のボランティアたちの活動の様子を意識する。	コミュニティーフレンド参加	リソースルームを利用した活動準備。活動記録を書く。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	外国人保護者が捉える日本の学校文化① 実習のふり返りと報告	講義、質疑応答 グループワーク	pp.54～70を読んでおく。 活動を省察する。
10	外国人保護者が捉える日本の学校文化② リソースルームの活用	講義、質疑応答 グループワーク	pp.70～84を読んでおく。
11	実習③:「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティーフレン ド参加	リソースルームを利用した活 動準備。活動記録を書く。
12	実習のふり返りと報告。活動課題を全体で 共有し、解決策を考える。	講義、質疑応答 グループワーク	教科書で学んだ内容から自分 の活動について考える。
13	実習④:「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティーフレン ド参加	リソースルームを利用した活 動準備。活動記録を書く。
14	実習のふり返りと報告 これまでの課題解決行動に関する考察	講義、質疑応答 グループワーク	活動記録を読みかえてお く。活動改善を考える。
15	実習⑤:「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティーフレン ド参加	リソースルームを利用した活 動準備。活動記録を書く。
16	実習のふり返りと報告 リソースルーム活用方法の共有	講義、質疑応答 グループワーク	課題と活動改善を考える。
17	実習⑥:「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティーフレン ド参加	リソースルームを利用した活 動準備。活動記録を書く。
18	実習のふり返りと報告 子どもの学習を前進させる。	講義、質疑応答 グループワーク	課題と活動改善を考える。
19	実習⑦:「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティーフレン ド参加	リソースルームを利用した活 動準備。活動記録を書く。
20	実習のふり返りと報告 年齢による子どものニーズ変化を知る。	講義、質疑応答 グループワーク	子どもの将来を考える。 課題と活動改善を考える。
21	第二世代育成と社会参加	講義、質疑応答 グループワーク	活動対象の子どもについて、 再考する。
22	実習⑧:「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティーフレン ド参加	リソースルームを利用した活 動準備。活動記録を書く。
23	実習⑨:「はだのこども館」における日本語 教科支援	コミュニティーフレン ド参加	リソースルームを利用した活 動準備。活動記録を書く。
24	実習のふり返りと報告 イベントの計画と準備	講義、質疑応答 グループワーク	学期末へ向けた活動を考え る。
25	実習⑩:「はだのこども館」における日本語 教科支援、イベント実施	コミュニティーフレン ド参加	リソースルームを利用した活 動準備。活動記録を書く。
26	実習ふり返り	質疑応答 グループワーク	活動記録を書く。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	「はだのこども館」における活動まとめを 発表	質疑応答 グループワーク	発表準備をする。活動記録を 書く。
28	イベントふり返り、全体のふり返り 講評	グループワーク、質疑 応答	実践課程をふり返り、学びを 深める。

テキスト	松永典子『多文化・多様性理解ハンドブック』(金木犀舎)
参考書	庵功雄(監修)『にほんご これだけ』(ココ出版)
その他 特記事項	本講は「学外での実践的教育を含む開講科目・実務経験のある教員等による開講科目」にあたる。実習がある火曜日は4限終了後派遣先へ移動して実習を行う。「サービスマスター入門講座」を履修済みであることが望ましいが、同じ学期に履修、または次の学期に履修することも可能である。初回授業において履修者を選考するので必ず出席すること。

科目名	EDU322: リテラシーと多文化教育				担当教員	M. Lupas	
開講期	秋	開講時限	火金4限	研究室	4206	オフィスアワー	P.19を参照のこと
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				3-④, 4-⑤	
キーワード	education, reading, writing, cross-cultural understanding						
授業の概要	The course introduces the principles of reading and writing instruction used in Kindergarten through Grade 5 in the United States and then analyzes videos of classroom teaching to understand how these principles are applied. Students can use the knowledge gained in this course to improve their skills as language tutors of English or Japanese. They will also gain understanding of cross-cultural differences between the American and Japanese educational systems.						
達成目標(授業の目的)	To understand the basic principles of teaching how to read and write in monolingual, bilingual, and multilingual classrooms. To become familiar with methods and materials used to teach literacy skills at the elementary school level. To become aware of cross-cultural similarities and differences in approaches to education.						
到達目標(学修成果)	Students will aim to do the following: (1) Understand and give example of the basic components of teaching reading and how they are carried out in the elementary school classroom. (2) Use a checklist to describe, analyze, and evaluate video case studies of teaching. (3) Summarize and critique the contents of video case studies. (4) Compare their own learning experiences with those depicted in the videos and readings.						
評価方法	Participation and discussion 25% Vocabulary tests 25% Reaction papers 50%						
評価基準	(1) Participation and discussion: Demonstrate accurate comprehension of the readings and videos as well as show ability to reflect on the contents by responding effectively to the instructor's questions orally or through in-class writing tasks (e.g., checklists, note-taking). (2) Demonstrate understanding of the definition of keywords and literacy principles. (3) Reaction papers: Punctuality, completeness and detail in describing, analyzing, and evaluating the video cases studies of teaching. Ability to think critically about the video contents (basic components of reading, key terminology, and concepts of literacy instruction as demonstrated in the videos and readings). Ability to compare one's own learning experiences with those depicted in the videos.						
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Basic reading skills, oral language, phonological awareness, phonics, fluency, vocabulary	video, lecture, reading	preview the textbook
2	Grades K-2: Video 1: Becoming readers and writers	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
3	Present reaction paper. Textbook reading: "Oral Language" p.8	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
4	Grades K-2: Video 2 "Writer's Journal" (level appropriate independent writing)	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
5	Present reaction paper. Textbook reading: "Phonological Awareness" p.9	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
6	Grades K-2: Video 3: Building oral language	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
7	Present reaction paper. Textbook reading: "Fluency" p.11	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
8	Grades K-2: Video 4: Thalia learns the details Bilingual schools	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
9	Present reaction paper. Textbook reading: “Learning Vocabulary” p.12	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
10	Grades K-2: Video 5: Assessment driven instruction	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
11	Present reaction paper. Textbook reading: “Prior Knowledge” p.13	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
12	Grades K-2: Video 6: Cassandra becomes a fluent reader. Using visual clues.	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
13	Present reaction paper. Textbook reading: “Comprehension” p.14	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
14	Grades K-2: Video 7: Connecting Skills to Text Phonics	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
15	Present reaction paper. Textbook reading: “Motivation” p.15	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
16	Grades K-2: Video 8: Promoting readers as leaders	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	
17	Present reaction paper. Textbook reading: “Integrated Reading” p.16	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
18	Grades K-2: Video 9: Students make choices Autonomy	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	
19	Present reaction paper. Textbook reading: “Assessment” p.18	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
20	Grades 3-5: Workshop 1: Creating contexts for learning.	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
21	Present reaction paper. Textbook reading: “Culture factor” p.19	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
22	Grades 3-5: Workshop 2: Fluency and word study	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
23	Present reaction paper. Textbook reading: “The Role of Practice” p.20	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
24	Grades 3-5: Workshop 3: Building comprehension	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
25	Present reaction paper. Textbook reading: “Conclusion” p.21	group work, video, discussion	write a reaction paper and do the textbook reading
26	Grades 3-5: Workshop 4: Writing (reading and writing connection)	video, lecture, Q&A, checklist, and other tasks	read video description handout
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Present reaction paper. Discussion.	group work, video, discussion	write a reaction paper
28	Review and individual consultations.	lecture, one-on-one consultations	read video description handout

テキスト	1. Elizabeth Pang and others. Teaching Reading (UNESCO International Bureau of Education, PDF). 2. Videos and handouts from http://learner.org and other sources.
履修条件、 前提科目	Online videos may sometimes be unavailable, so the contents above may change somewhat.